

# Real Match Assistant マニュアル

## 操作編 (Ver.1.2)

富士フイルム株式会社

## 目次

1. 本書の構成 .....	1
2. RMAの効果確認の方法 .....	2
2-1. 手順	
2-2. 3種印刷物の作成	
3. RMAの操作方法 .....	5
3-1. 機能の全体フロー	
3-2. 画面構成	
3-3. プリンタープロファイルの更新	
3-4. 色見本プロファイルの作成	
3-5. デバイスリンクプロファイルの作成	
3-6. 印刷	
3-7. フィードバック機能を使用する場合	
4. 注意事項 .....	61
5. Q&A .....	62

## 1. 本書の構成

本マニュアルでは、本ソフトウェアに付帯している「冷やしうどん」の絵を使って、Real Match Assistant（以下、RMA）の操作方法を習得し、その効果を体験します。

本章では、本RMAマニュアル操作編の構成について説明します。

### 2. RMAの効果確認の方法

RMAの色合わせ効果確認方法について説明します。

#### 2-1. 手順

RMAの色合わせ効果確認の手順、効果確認の方法について説明します。

#### 2-2. 3種印刷物の作成

RMAの色合わせ効果確認に必要な3種の印刷物の作成方法について説明します。

## 3. RMAの操作方法

RMAソフトウェアの操作方法について説明します。

### 3-1. 機能の全体フロー

RMAソフトウェアの機能およびPODプリンターPrint Serverで使用する機能の全体フローを説明します。

### 3-2. 画面構成

RMAソフトウェアのメイン画面及びオプション画面について説明します。

### 3-3. プリンタープロファイルの更新

RMAソフトウェアによるプリンタープロファイルの更新方法について説明します。

### 3-4. 色見本プロファイルの作成

RMAソフトウェアによる色見本プロファイルの作成方法について説明します。

### 3-5. デバイスリンクプロファイルの作成

PODプリンターPrint Server内において、色見本プロファイルとプリンタープロファイルを一緒にしたデバイスリンクプロファイルの作成方法について説明します。

### 3-6. 印刷

PODプリンターPrint Server内において、原稿データをデバイスリンクプロファイルに通し、色合わせした印刷物の作成方法について説明します。

### 3-7. フィードバック機能を使用する場合

色合わせした印刷物の色合わせ精度が不足している場合、色見本プロファイルを作成し直す方法について説明します。

## 4. 注意事項

RMAソフトウェアを使用する上での注意事項について説明します。

## 5. Q&A

RMAソフトウェア使用において、想定される問題への解決方法を説明します。

※“¥デスクトップ¥ユーティリティ¥マニュアル”に、簡単ガイド、一連の操作を記録した動画マニュアルを入れています。本書と合わせてご覧ください。

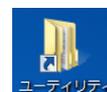
## 2. RMA効果確認の方法

本章では、RMAの色合わせ効果の確認方法について説明します。

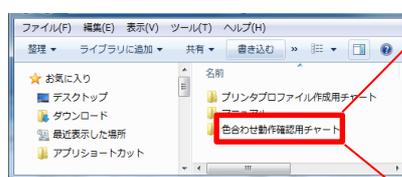
### 2-1. 手順

RMAの色合わせ効果確認の手順、効果確認の方法について説明します。

- A) 事前準備(インストール)が完了すると、デスクトップに「ユーティリティフォルダ」が生成されます。



- B) このフォルダ内にある色合わせ動作確認用チャートフォルダの中に、色見本出力用データ「色合わせ動作確認\_色見本原稿出力.pdf」と原稿データ「色合わせ動作確認\_原稿データ.pdf」の2つの「pdf」ファイルが入っています。



「色合わせ動作確認\_色見本原稿出力.pdf」



「色合わせ動作確認\_原稿データ.pdf」

- C) これらを使い、以下に示す3種の印刷物を作成します。

Step1: 色見本の作成: 対象PODで「色合わせ動作確認\_色見本原稿出力.pdf」をJapanColor2011で出力します。

Step2: 比較印刷物の作成: RMAの効果をわかりやすくするため、対象PODで原稿データをデフォルト条件(例えば、JapanColor2011)で出力します。

Step3: RMA処理印刷物の作成: 色見本をスキャンしたデータと原稿データ(CMYK)の2つの情報に基づき、色見本プロファイルを作成。対象PODで原稿データをこの色見本プロファイルに基づいたデバイスリンクプロファイルで処理し出力します。

#### Step1 色見本の作成



#### Step3 RMA処理印刷物の作成



#### Step2 デフォルト条件による比較印刷物の作成



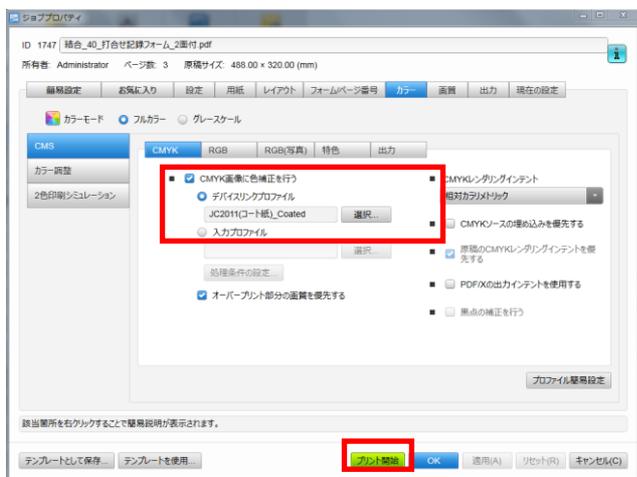
Step4 : 色見本とRMA処理印刷物間の色の違いと、色見本とデフォルト条件 (Ex. JapanColor2011) による比較印刷物間の色の違いを比較してください。RMA処理印刷物の方が色見本に近いことが確認できると思います。このような状態になっていれば、RMAは正常に動作していることとなります。デフォルト条件による比較印刷物が色見本に対し暗い再現なのに対し、RMA処理印刷物は色見本に近い再現が得られています。

## 2-2. 3種印刷物の作成

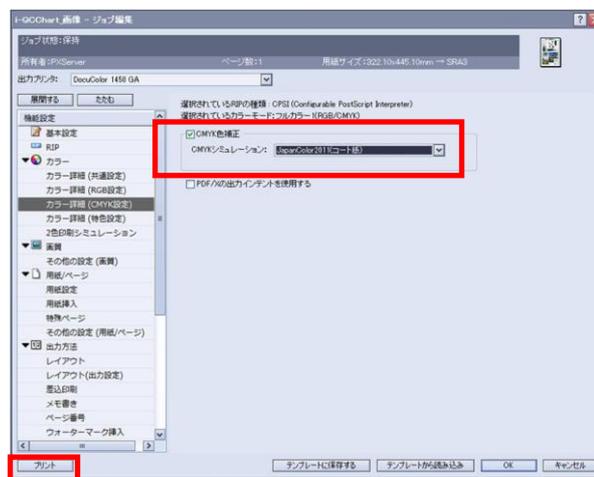
RMAの色合わせ効果確認に必要な上記3種の印刷物の作成方法について説明します。

### 2-2-1. Step1&2:色見本及びデフォルト条件による印刷物の作成

Step1における色見本、Step2におけるデフォルト条件による印刷物を出力するために、Print Serverプロファイル設定画面で、「Japan Color2011」プロファイルを設定し、出力してください。



GX-Print Serverの場合



PX-Print Serverの場合

### 2-2-2. Step3 : RMA処理印刷物作成の準備

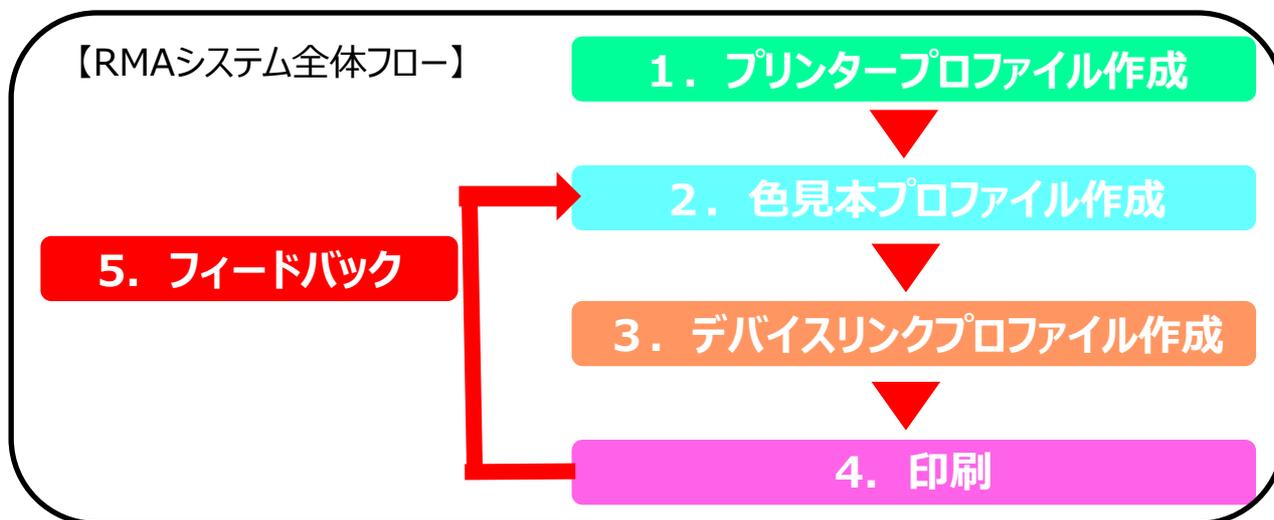
RMAによる色合わせした印刷物を作成するための操作方法については、次章を参照ください。RMAをインストールすると、作業用フォルダが「C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥ [RMA\_WORK]」の下の以下の5つのフォルダに生成されます (マニュアル事前準備編2-3.(P.23)参照)。以降の説明では、「C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥ [RMA\_WORK]」の下に、以下のフォルダが構成されているものとして説明します。

表1. 作業用RMA\_WORKフォルダ

フォルダ名	フォルダの用途
「スキャンデータ」	ScanUtility でスキャンした RGBデータの出力場所
「プリンタープロファイル」	プリンタープロファイルの出力場所
「プロジェクト」	プロジェクトファイルの保存場所 不要なプロジェクトはその都度削除してください。
「原稿データ」	原稿データの格納場所 作業を開始する前に、原稿データを格納しておいてください。
「色見本プロファイル」	色見本プロファイルの出力場所

下図はRMAシステムの全体像です。RMAソフトウェアは、色見本プロファイルとプリンタープロファイルの2種のプロファイルを作成します。Print Severでこれらのプロファイルを一緒にしたデバイスリンクプロファイルを作成し、原稿データをこのプロファイルにより処理し印刷をします。印刷物の色合わせ精度が低い場合は、フィードバックを行い、色見本プロファイルを作成し直すことが可能です。

なお、プリンタープロファイルを更新しない場合は、色見本プロファイル作成から開始してください。



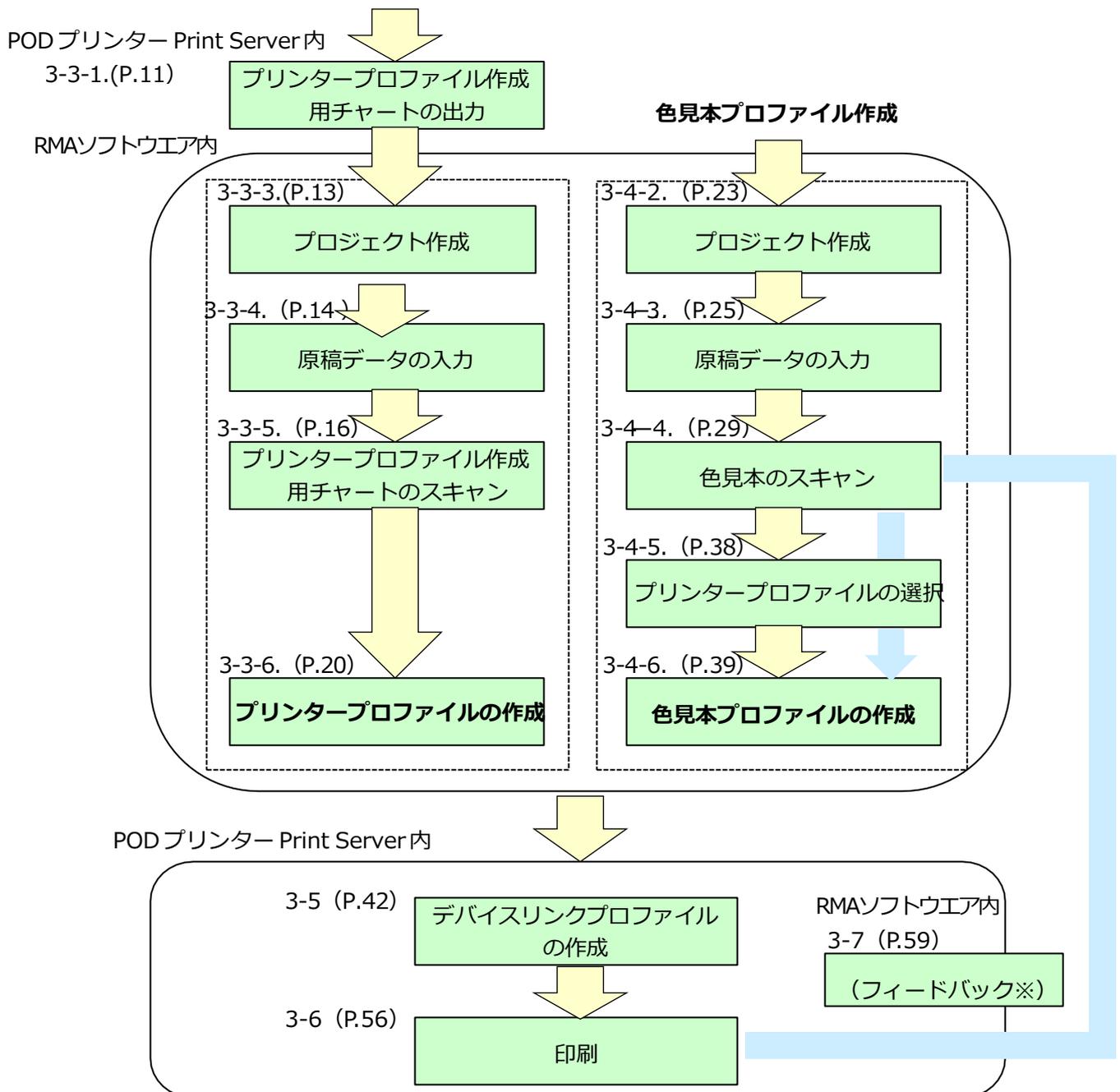
### 3. RMAの操作方法

RMAの操作方法について説明します。

#### 3-1. 機能の全体フロー

本節では、RMA操作の全体フローについて説明します。下図は、RMA操作の全体像です。各ブロックの左上の数字は後述している節、()内は記載ページを示しています。表2に各ブロックの概要を示しています。RMA ソフトウェアは、色見本プロファイルとプリンタープロファイルの2種のプロファイルを作成します。デフォルトのプリンタープロファイルが内蔵されていますが、ある特定のプリンターに対して作成したものですので、十分な色合わせ精度が出ない場合があります。プリンタープロファイルは本ソフトウェア導入時、用紙の銘柄、ロットが変わった場合などがに応じて更新することをお勧めします。色見本プロファイル作成時には、プリンタープロファイルが必要です。プリンタープロファイルを更新する場合は、プリンタープロファイル更新後、色見本プロファイルを作成してください。

#### プリンタープロファイル作成 (更新する場合)



※プリンタープロファイルのフィードバックはありません。

表2. 各機能の概要

	大項目	小項目	概要	使用対象
3-3-1.	プリンタープロファイル作成 (更新の場合)	チャートの出力	PODプリンターから、プリンタープロファイル作成用チャートを出力します。	Print Server
3-3-3.		プロジェクト作成	作業操作を記録するプロジェクトを作成します。	RMA
3-3-4.		原稿データの入力	プリンタープロファイル作成用チャートデータをRMAに入力します。	
3-3-5.		プリンタープロファイル作成用チャートのスキャン	出力したプリンタープロファイル作成用チャートをPODプリンターのスキャナでスキャンします。	RMA スキャナ
3-3-6.		プリンタープロファイル作成	プリンタープロファイル作成用チャートデータとスキャンデータに基づき、プリンタープロファイルを更新します。	RMA
3-4-2.		色見本プロファイル作成	プロジェクト作成	作業操作を記録するプロジェクトを作成します。
3-4-3.	原稿データの入力		原稿データをRMAに入力します。	
3-4-4.	色見本のスキャン		色見本をスキャンします。	RMA スキャナ
3-4-5.	プリンタープロファイルの選択		出力する用紙に対応したプリンタープロファイルを選択します。	RMA
3-4-6.	色見本プロファイル作成		原稿データと色見本のスキャンデータに基づき、色見本プロファイルを作成します。	RMA
3-5.	デバイスリンクプロファイル作成			上記色見本プロファイルとプリンタープロファイルと一緒にしたデバイスリンクプロファイルを作成します。
3-6.	印刷		原稿データを上記デバイスリンクプロファイルで処理して色合わせした印刷物を作成します。	
3-7.	フィードバック		作成した印刷物を再度スキャンし、より精度の高い色見本プロファイルを作成します。	RMA スキャナ Print Server

## 3-2. 画面構成

本節では、RMAソフトウェアの画面構成について説明します。

### 3-2-1. メイン画面

RMAソフトウェアのメイン画面の構成は以下のとおりです。表3に各機能の概要を示します。

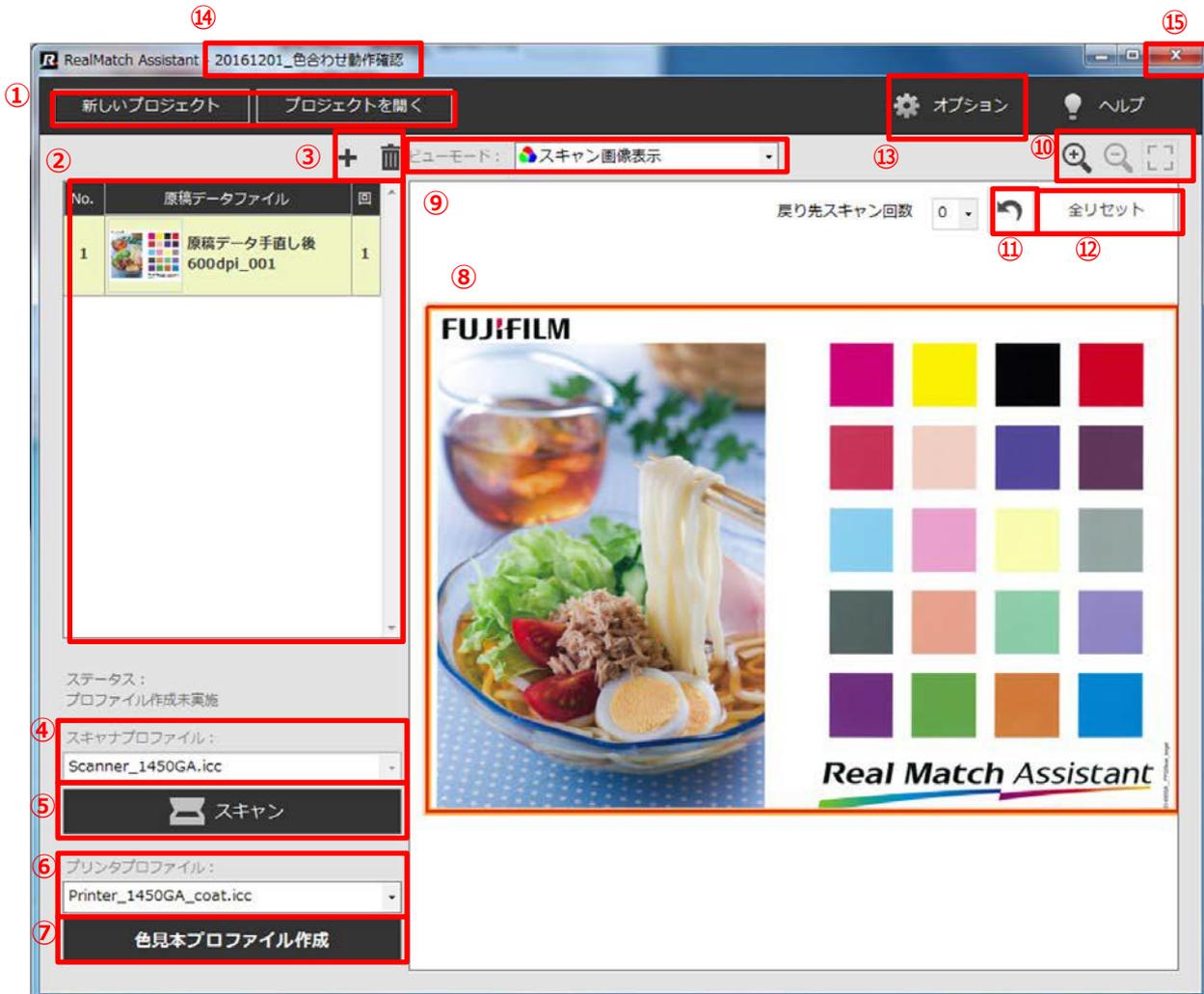


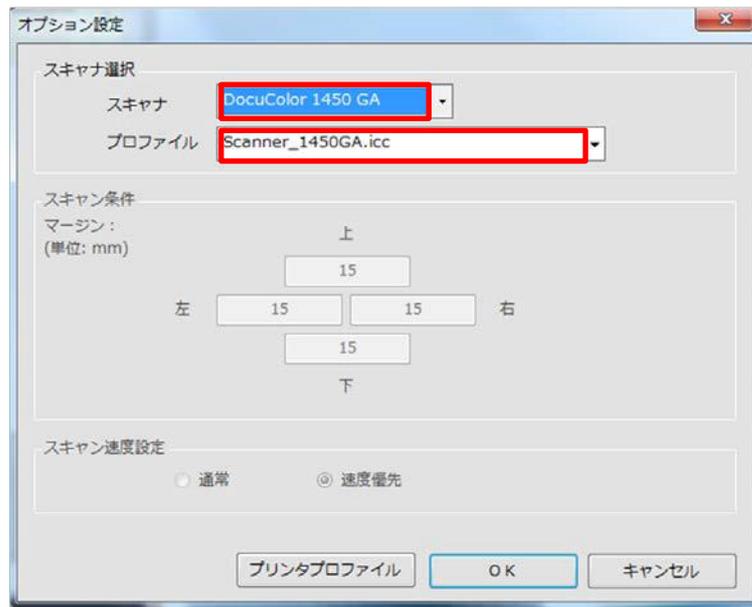
表3. 機能の概要

#	名称	概要
①	「新しいプロジェクト」ボタン	新規にプロジェクトを作成するためのボタンです。
	「プロジェクトを開く」ボタン	既に作成したプロジェクトを開いて、既存プロジェクトの編集や色合わせの再実行を行うことができるボタンです。
②	原稿データファイル	入力した原稿データの一覧を表示するリストです。原稿データの番号、サムネイル、ファイル名、スキャン回数を表示します。 なお、原稿データが複数ある場合は、このリスト上でドラッグ操作をすることで、順序の入れ替えが可能です。
③	"  "ボタン "  "ボタン	プロジェクトに原稿データを追加/削除するためのボタンです。
④	スキャナプロファイル名表示	対象デバイスのスキャナプロファイルを表示。各デバイスのスキャナプロファイルが実装されています。
⑤	「スキャン」ボタン	スキャンデータを取り込むためのボタンです。
⑥	プリンタープロファイル選択	「コート紙」、「マット紙」、「J紙」のいずれかから選択してください。
⑦	「〇〇プロファイル作成」ボタン	色見本/プリンタープロファイルを作成するためのボタンです。〇〇に「色見本」か「プリンタ」が表示されます。
⑧	ビューア領域	原稿データとスキャンデータを表示するための領域です。
⑨	ビューモード選択	ビューア領域の表示方法を選択するドロップダウンリスト。3パターンの表示方法から選択が可能です。
⑩	ビューア操作ボタン	ビューア領域に表示されている画像の拡大縮小操作を行うためのボタンです。
⑪	アンドゥボタン  "	戻り先スキャン回数で指定したスキャン状態にします。
⑫	全リセット	スキャン結果をすべて削除します。
⑬	「オプション」ボタン	ライセンス認証を受けたスキャナおよびスキャナプロファイルを設定します。
⑭	プロジェクト名表示	作成したプロジェクト名を表示します。
⑮	閉じる	ソフトウェアを終了します。

## 3-2-2. オプション画面

### (1) オプション設定

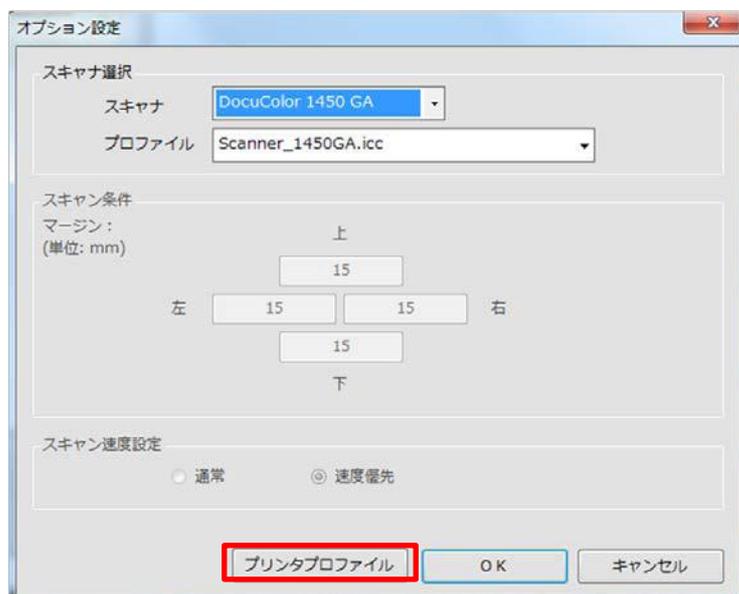
メイン画面③の「オプション」ボタンを押すと、以下の画面が表示されます (DocuColor 1450 GA の場合)。ライセンス認証を受けたスキャナ機種名およびスキャナプロファイル名が表示されます。選択したスキャナプロファイルはメイン画面 ④ に表示されます。なお、インストール直後のプロジェクト作成前は、オプション画面は開きません。「新しいプロジェクト」ボタンをクリックすると、オプション画面が自動的に立ち上がり、スキャナ機種及びスキャナプロファイルを設定することでオプション画面を参照できるようになります。



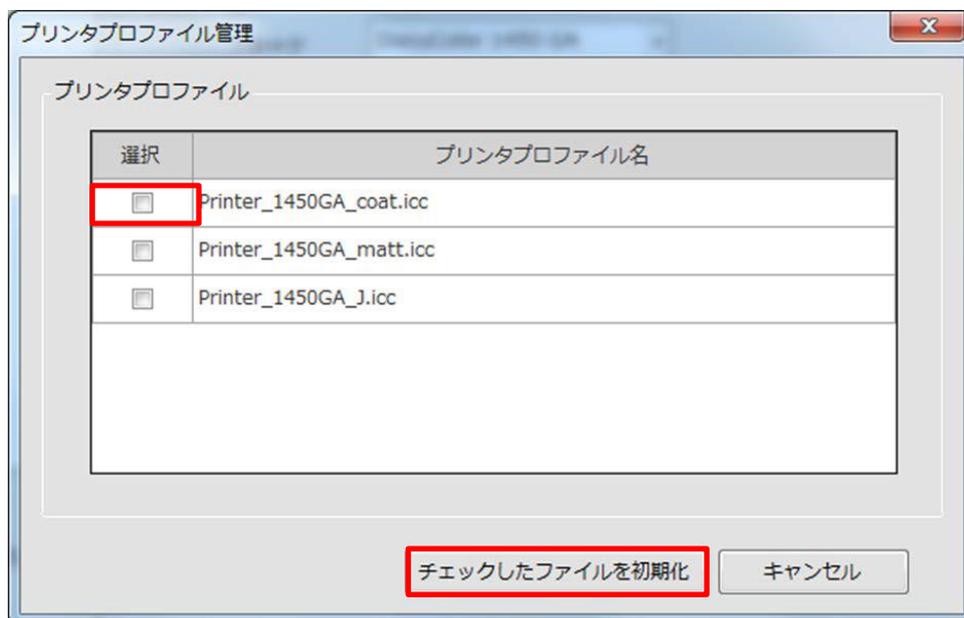
※“Versant 80 Press”あるいは“Versant 180 Press”の場合、スキャナは“Versant 80/180 Press”と表示され、プロファイルは“Versant 80/180.icc”と表示されます。

### (2) プリンタープロファイル管理

1. オプション画面「プリンタープロファイル」ボタンをクリックすると、以下のプリンタープロファイル管理画面が開きます。なお、「スキャン条件」および「スキャン速度設定」は PODスキャナの場合は関係ありません。



2. プリンタープロファイルは内部で設定されていますが、ご使用になるPODプリンターのプリンタープロファイルを作成（更新）することができます。ここでは、更新したプリンタープロファイルを初期化する（内部に設定されているプリンタープロファイルファイルに戻す）ことができます。初期化する場合は、チェックボックスにチェックを入れ、「チェックしたファイルを初期化」をクリックしてください。



### 3-3. プリンタープロファイルの更新

本節では、プリンタープロファイルの更新方法について説明します。デフォルトのプリンタープロファイルが内蔵されていますが、色合わせ精度を高めるために、ご使用になるPODプリンターのプリンタープロファイルを作成することをお奨めします。RMAソフトウェアインストール後、用紙の銘柄、ロットなどが変わった時に更新してください。

#### 3-3-1. プリンタープロファイル作成チャートの出力

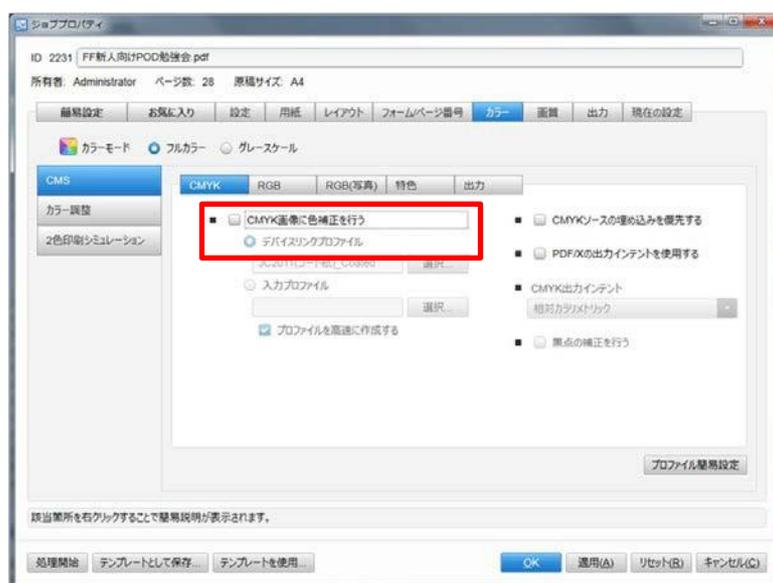
“¥デスクトップ¥ユーティリティ¥プリンタープロファイル作成用チャート”に格納されている「プロファイル作成用チャート.pdf」（以下参照）を“C:¥ユーザー¥（ユーザー名）¥RMA\_WORK¥原稿データ”へコピーして、PODプリンターから出力してください。

PODプリンター Print server には、GX Print Server（Versant 80 Press、Versant 180 Press）と PX Print server（DocuColor 1450 GA、DocuColor 7171 P）の2種類があり、出力操作が異なります。GX Print Server は、3-6-1（P.55）、PX Print server は、3-6-2（P.56）を参照してください。この時、CMYK画像に対する色補正出力条件を以下のようにしてください。



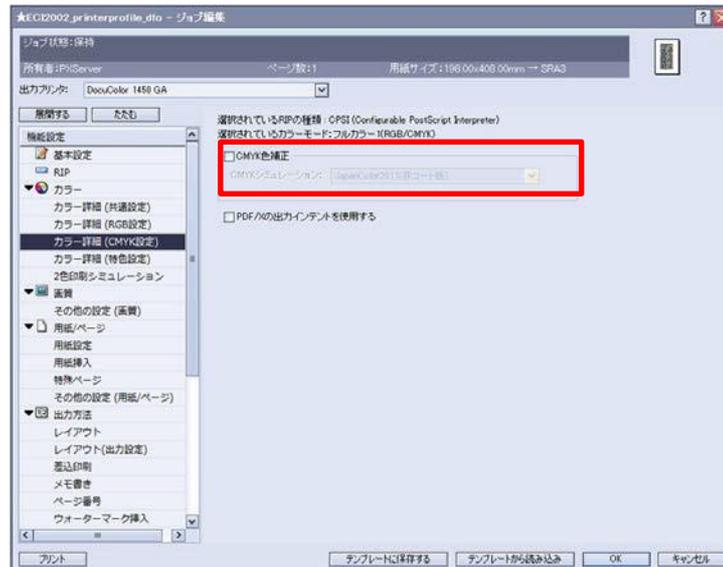
#### (1) GX Print Server

「ジョブプロパティ」ダイアログを開き、「カラー」、「CMS」、「CMYK」をクリックし、以下のように「cmyk 画像に色補正を行う」のチェックを外し、プロファイルなしの条件で出力してください。



## (2) PX Print Server

「ジョブ編集」ダイアログを開き、「カラー詳細 (CMYK 補正)」を選択し、以下のように「CMYK色補正」のチェックを外し、プロファイルなしの条件で出力してください。



### 3-3-2. RMAソフトウェアの起動

1. パソコンのデスクトップ上にあるRMA実行アイコンをダブルクリックし、RMAソフトウェアを起動してください。



Real Match Assistant

### 3-3-3. 新規プロジェクトの作成

1. RMAソフトウェアでは、1つのプロファイルを生成するための情報一式を「プロジェクト」という単位で管理します。プロファイルを作成する場合は、必ず新規プロジェクトの作成から行います。RMAソフトウェア上で、①「新しいプロジェクト」ボタンをクリックし、表示された「新しいプロジェクト」ダイアログで、②下記表4の通りに設定し、③「作成」をクリックしてください。なお、「新しいプロジェクト」ボタンの初回クリック時、オプション画面が自動的に立ち上がります。スキャナ機種及びスキャナプロファイルを設定してください。

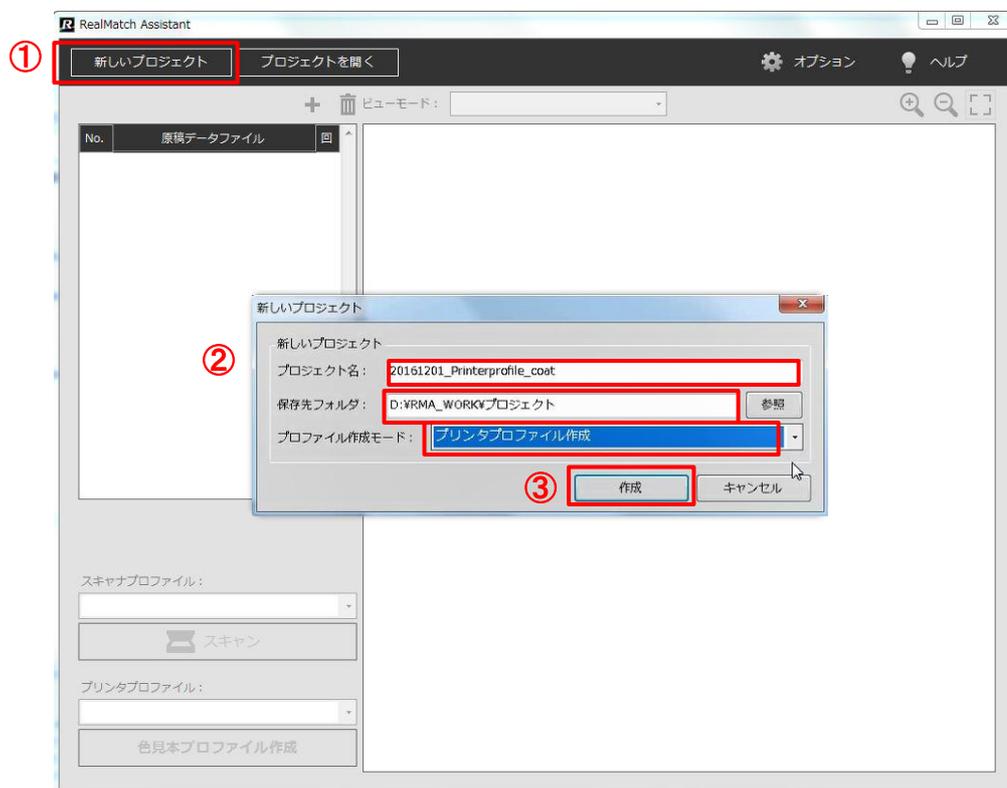


表4. プリンタープロファイルのプロジェクト

項目名	内容
プロジェクト名	プロジェクトに任意の名前を付けてください。例えば、“20161201_Printerprofile_Coat”（coat：コート紙用プリンタープロファイル）のように記載ください。下記「保存先フォルダ」の下に、プロジェクト名と同名のフォルダが作成され、プロジェクトに関わるデータが格納されます。
保存先フォルダ	プロジェクトに関わるデータを格納するフォルダを指定します。“C:\ユーザー¥（ユーザー名）¥RMA_WORK¥プロジェクト”を選択してください。
プロファイル作成モード	「色見本プロファイル作成」であるか、「プリンタープロファイル作成」であるか選択できます。「プリンタープロファイル作成」を選択してください。選択されたモードはメイン画面左下の「（色見本/プリンタ）プロファイル作成ボタン」に表示されません。（3-2-1.メイン画面⑦参照）

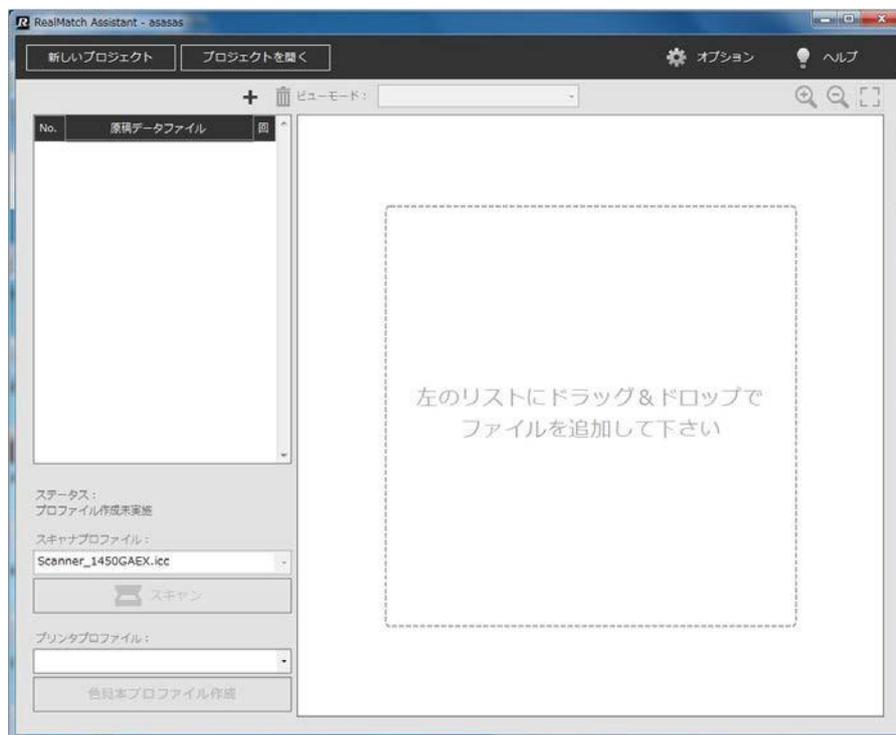
### 3-3-4. 原稿データの入力

プリンタープロファイル作成用データ「プロファイル作成用チャート.pdf」をRMA ソフトウェアに入力します。

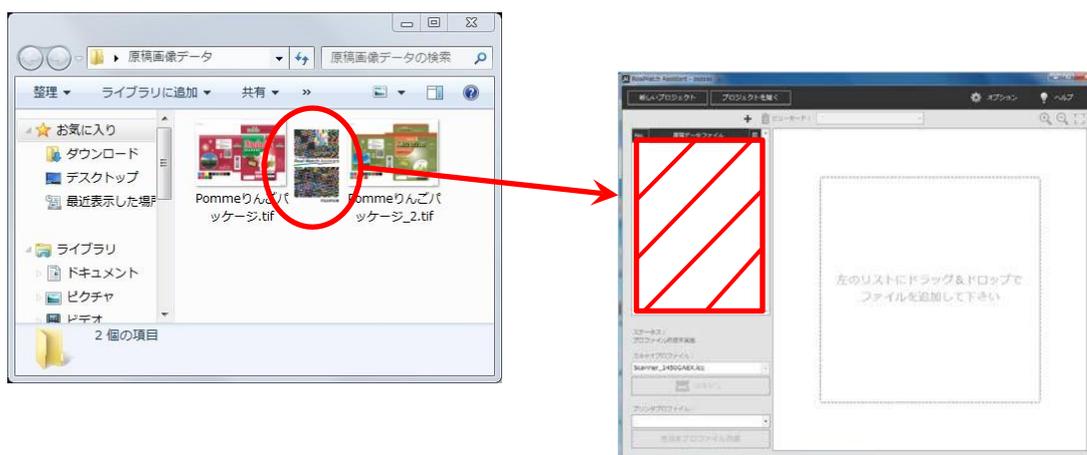
下記 1) あるいは 2) の方法で、「プロファイル作成用チャート.pdf」を入力することができます。

#### 1) ドラッグ&ドロップによる入力

1. プロジェクトを作成し、以下の画面になっていることを確認します。



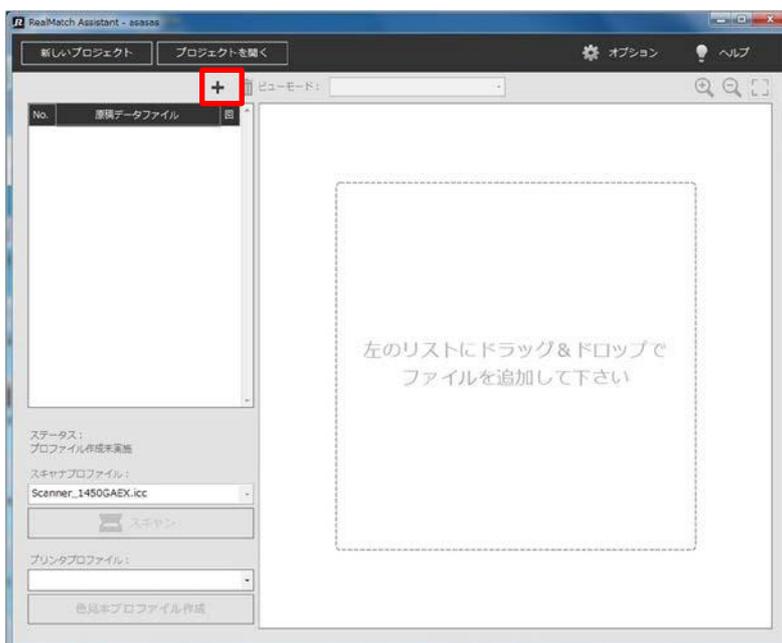
2. 原稿データフォルダに格納されている「プロファイル作成用チャート.pdf」をドラッグし、下記データファイル欄にドロップすると、右側の領域に画像が表示されます。



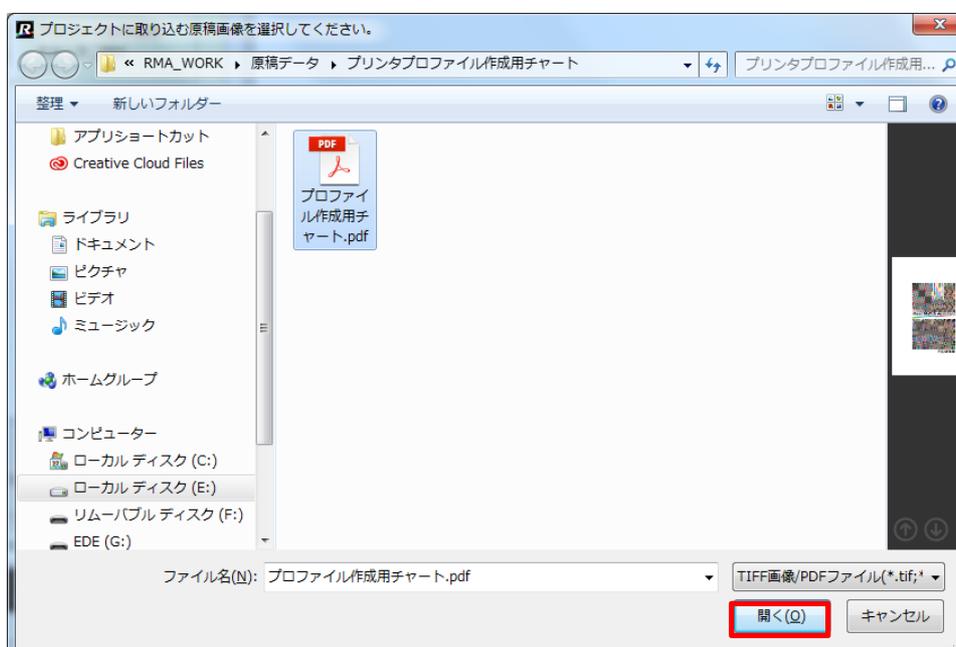
## 2) ファイル選択による入力

ファイル選択機能を使って、「プロファイル作成用チャート.pdf」を入力する場合は、以下の手順で行ってください。

1. プロジェクトを作成し、リスト上部にある追加ボタン（**+**）をクリックします。



2. ファイル選択ダイアログが開きますので、「C:¥ユーザー¥（ユーザー名）¥RMA\_WORK¥原稿データ」を指定し、「プロファイル作成用チャート.pdf」を選択して「開く」をクリックしてください。



ビューア領域に、「プロファイル作成用チャート.pdf」画像が表示されます。

### 3-3-5. スキャン

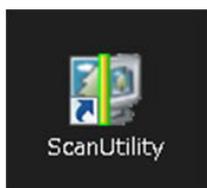
PODプリンターで出力したプリンタープロファイル作成用チャートをPODプリンター付属のスキナーでスキャンして読み込みます。

#### (1) 色見本のセット

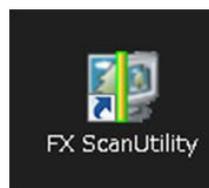
1. PODプリンターのスキナーの蓋を開けて、プリンタープロファイル作成用チャートをセットします。このとき、スキャンする面を下に向け、色見本の上に数枚の白紙を乗せてください。

#### (2) Scan Utilityの実行

1. デスクトップ上にある以下の富士ゼロックス株式会社製「ScanUtility」アイコン（PX Print Server）あるいは「FX ScanUtility」アイコン（GX Print Server）をダブルクリックしてください。



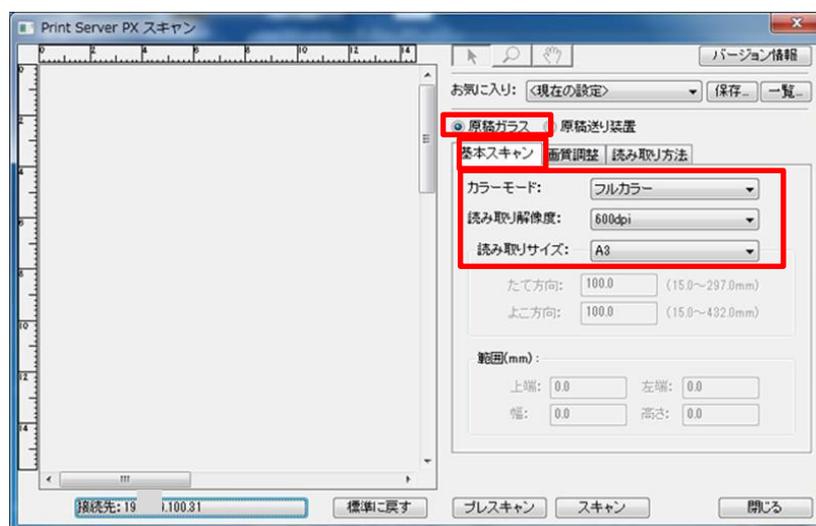
PX Print Serverの場合



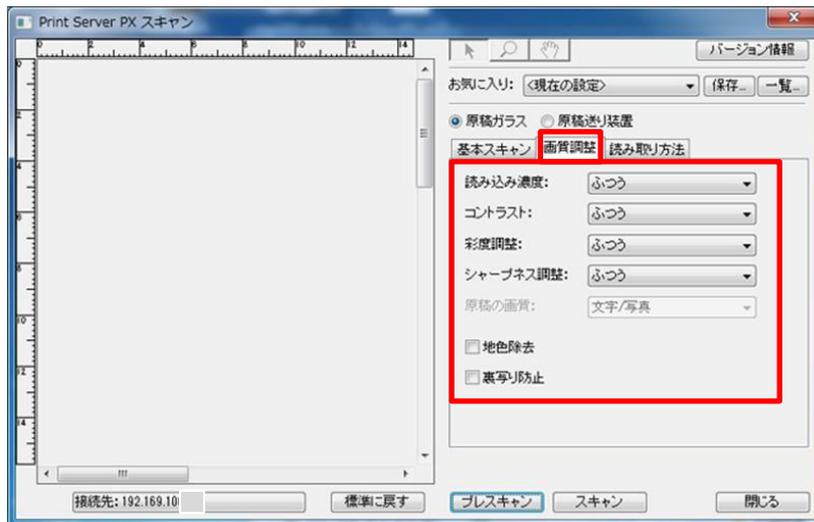
GX Print Serverの場合

2. PX Print Serverの場合は、「PrintServer PX スキャン」ダイアログ、GX Print Serverの場合は、「Print Server スキャン」ダイアログが表示されます。

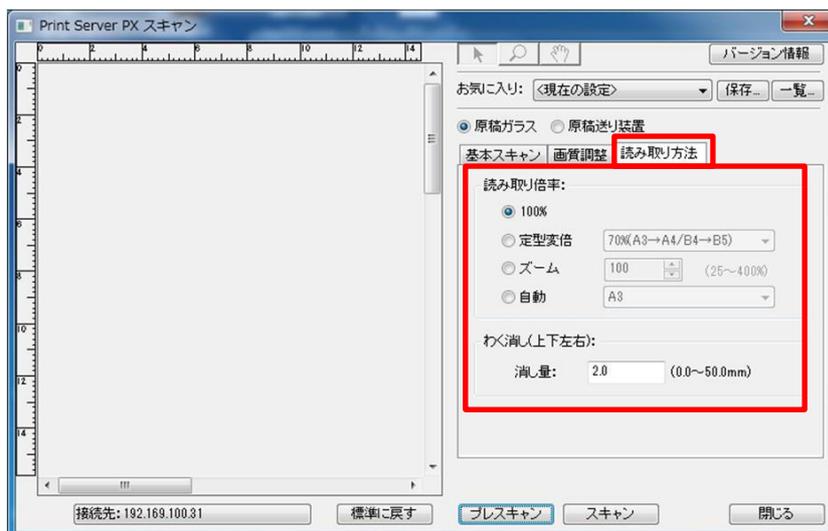
「Print Server PX スキャン」あるいは「Print Server スキャン」ダイアログの各条件を以下の通りに設定してください。「カラーモード」は「フルカラー」、「読み取り解像度」は600dpi、「読み取りサイズ」は色見本のサイズに応じて設定してください。



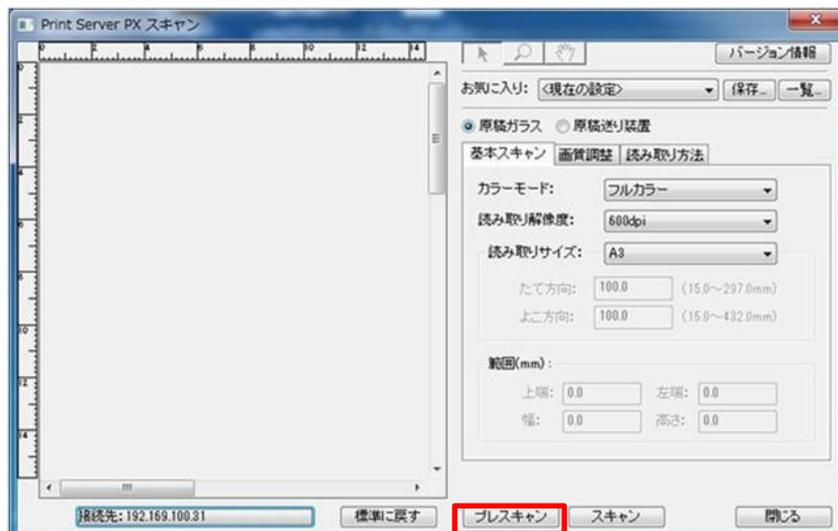
3. 「画質調整」をクリックし、以下のように条件を設定してください。「読み込み濃度」、「コントラスト」、「彩度調整」、「シャープネス調整」全てを「ふつう」とし、「地色除去」、「裏写り防止」はチェックなしにしてください。



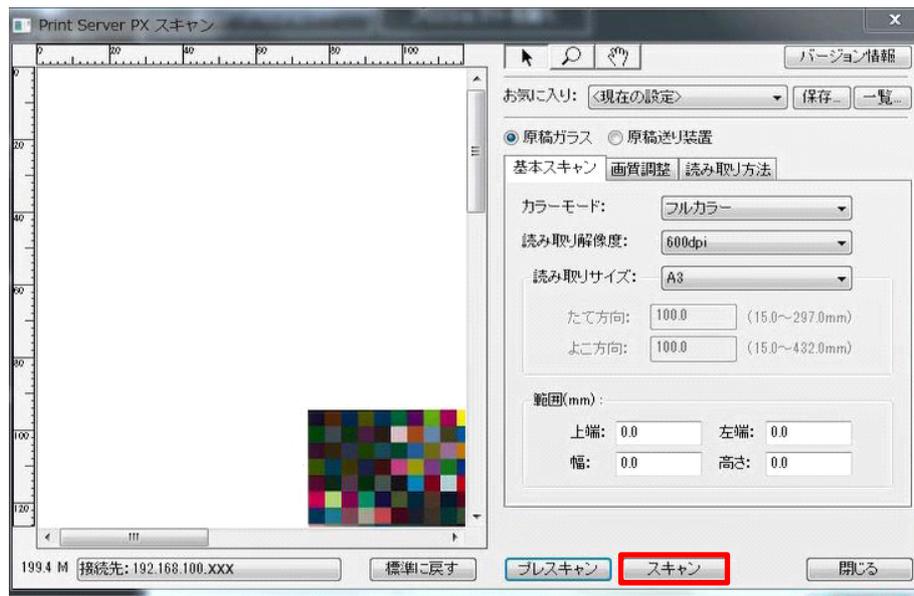
4. 「読み取り方法」をクリックし、以下のように条件を設定してください。「読み取り倍率」100%、「わく消し」2.0に設定してください。



5. 「プレスキャン」をクリックしてください。なお、プレスキャンは2～3分かかります。



6. プレスキャン終了後、スキャン画像が以下のように表示されます。「スキャン」ボタンをクリックしてください。



7. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。「C:\ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥スキャンデータ」を指定し、プリンタープロファイルであることがわかる名称（例）20161201\_printerprofile\_coat) を記載し、ファイルの種類を「Tiff」として「保存」ボタンをクリックしてください。

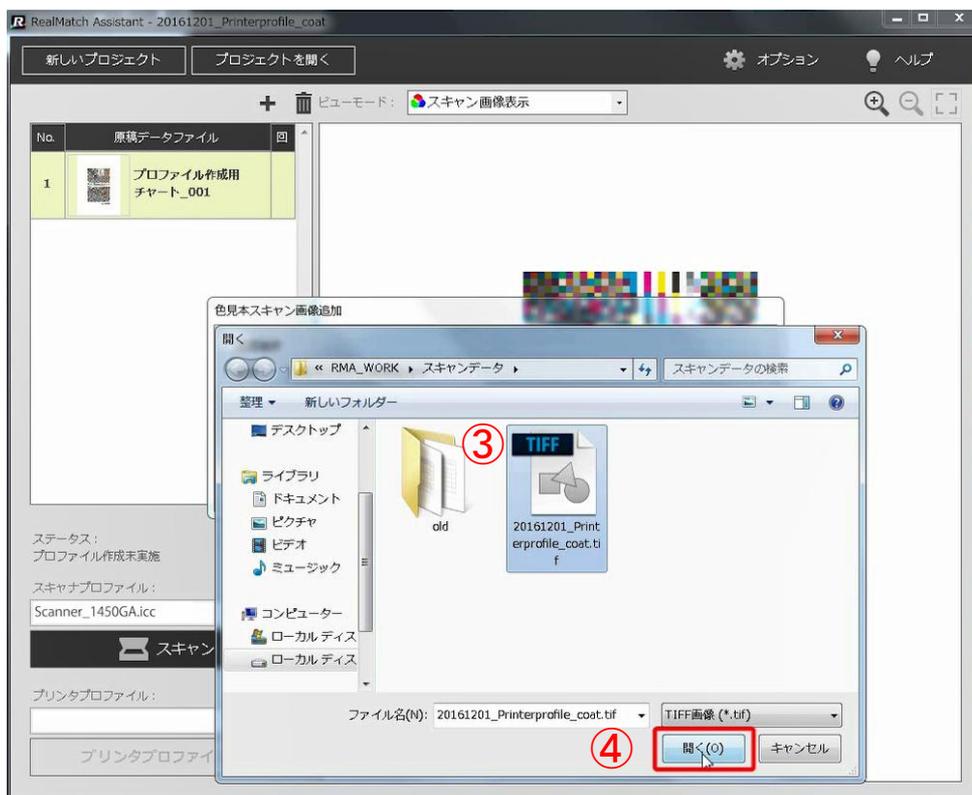


### 3-3-6. スキャンデータの取り込み

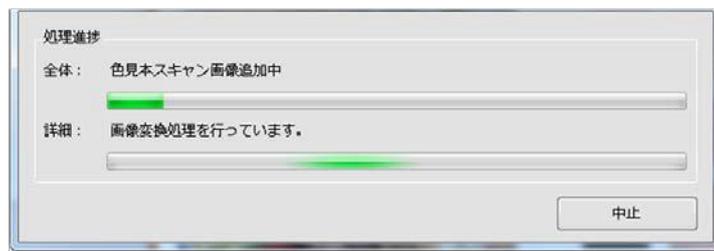
1. スキャンデータの保存が完了したら、RMA メイン画面に戻り、①「スキャン」ボタンをクリックしてください。
2. ②「OK」ボタンをクリックしてください。



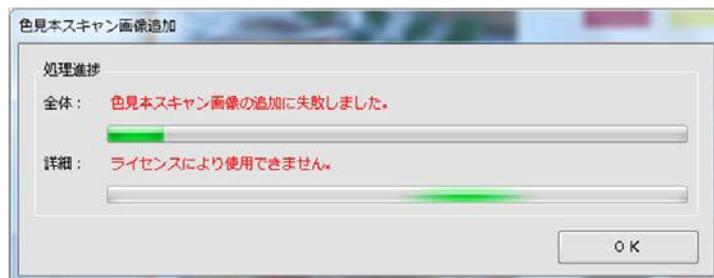
3. 保存したスキャンデータをRMAソフトウェアに取り込むため、「3-3-5.スキャン」7. で保存したスキャンデータを③選択し、④「開く」をクリックしてください。



4. 以下のダイアログが表示され、終了するまで、2, 3 分かかります。原稿データと取り込まれたスキャンデータの位置合わせを実行しています。原稿データとスキャンデータの位置合わせができない場合、以下のエラーメッセージが表示されます。プリンタープロファイル作成チャートが等倍で出力されているか確認してください。

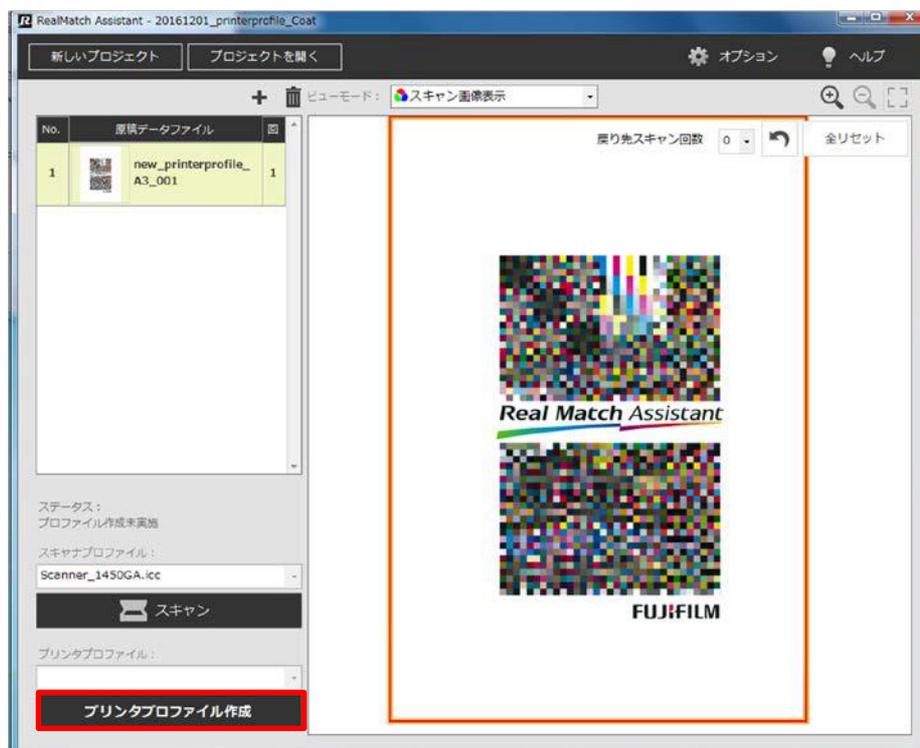


実行中を示すダイアログ



エラーメッセージ

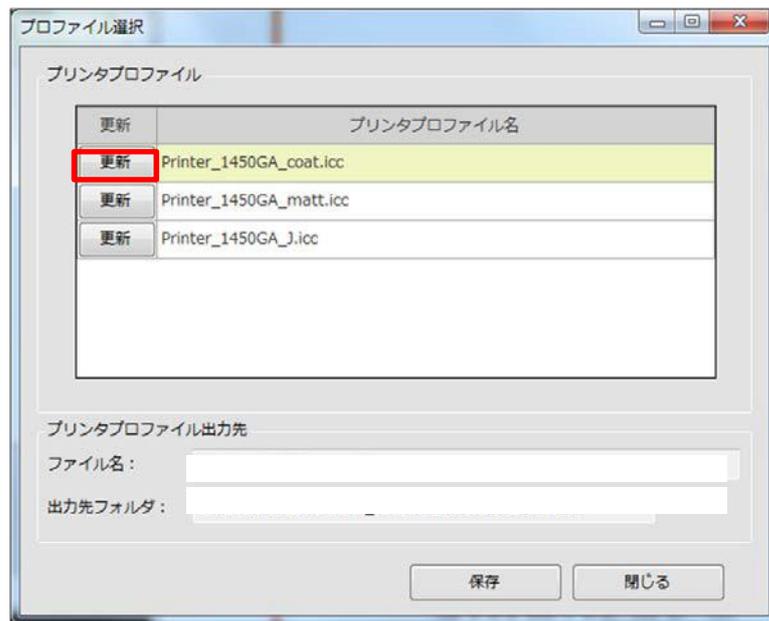
5. 正常に終了すると、以下のようにスキャンデータが原稿データの上に重なった状態でビューア領域に表示されます。



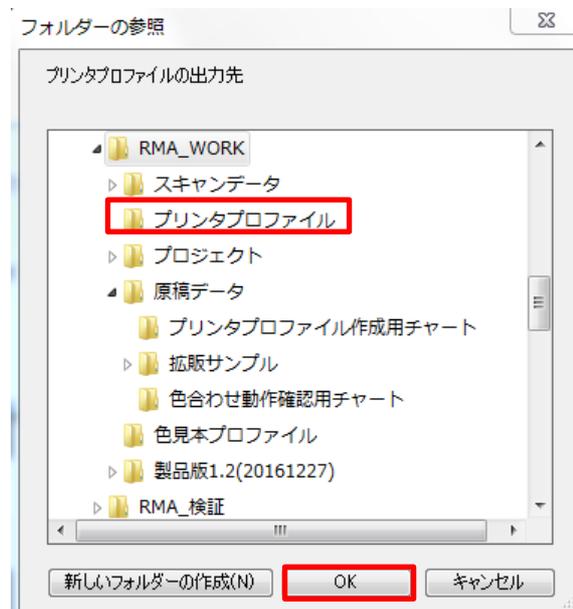
### 3-3-7. プリンタープロファイルの作成

1. スキャン完了後、上記ステップ5のメイン画面左下にある「プリンタープロファイル作成」ボタンをクリックしてください。

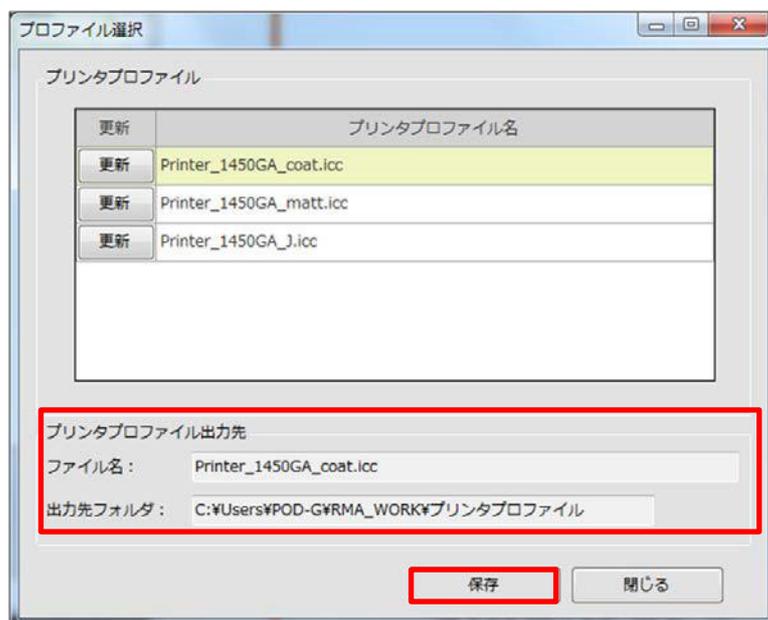
2. 「プロファイル選択」ダイアログが表示されますので、更新したいプリンタープロファイルを選択し、「更新」ボタンをクリックしてください（DocoColor 1450 GA、コート紙の場合）。



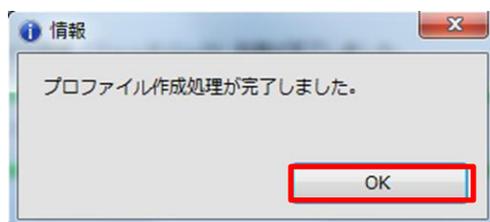
3. プリンタープロファイル出力先に、「C:¥ユーザー¥（ユーザー名）¥RMA\_WORK¥プリンタープロファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



4. 「プロファイル選択」ダイアログのプリンタープロファイル出力先に、ファイル名および出力先フォルダが設定されます。ファイル名は変更できません。「保存」ボタンをクリックしてください。  
なお、プリンタープロファイルは、下記出力先フォルダとは別にRMAシステム内に保存、管理され、3-4-5. 「プリンタープロファイルの選択」のプリンタープロファイルプルダウンメニューに反映されます。



5. 「正常に色合わせが完了すると、以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



以上で、プリンタープロファイルの更新は完了です。

### 3-4. 色見本プロファイルの作成

本節では、色見本プロファイルの作成方法について説明します。なお、色見本と原稿データの絵柄は一致していることが必要です。色見本は原稿データを等倍で出力したものであるか確認してください。

#### 3-4-1. RMAソフトウェアの起動

1. パソコンのデスクトップにあるRMA実行アイコンをダブルクリックし、RMAソフトウェアを起動してください。



Real Match Assistant

#### 3-4-2. 新規プロジェクトの作成

1. ①「新しいプロジェクト」をクリックしてください。
2. 「新しいプロジェクト」ダイアログが開いたら、②表4の通りに入力し、③「作成」ボタンをクリックしてください。プロジェクト名がメイン画面左上（3-2-1.画面構成⑭）に表示されます。  
なお、「新しいプロジェクト」ボタンの初回クリック時、オプション画面が自動的に立ち上がります。スキャナ機種及びスキャナプロファイルを設定してください。

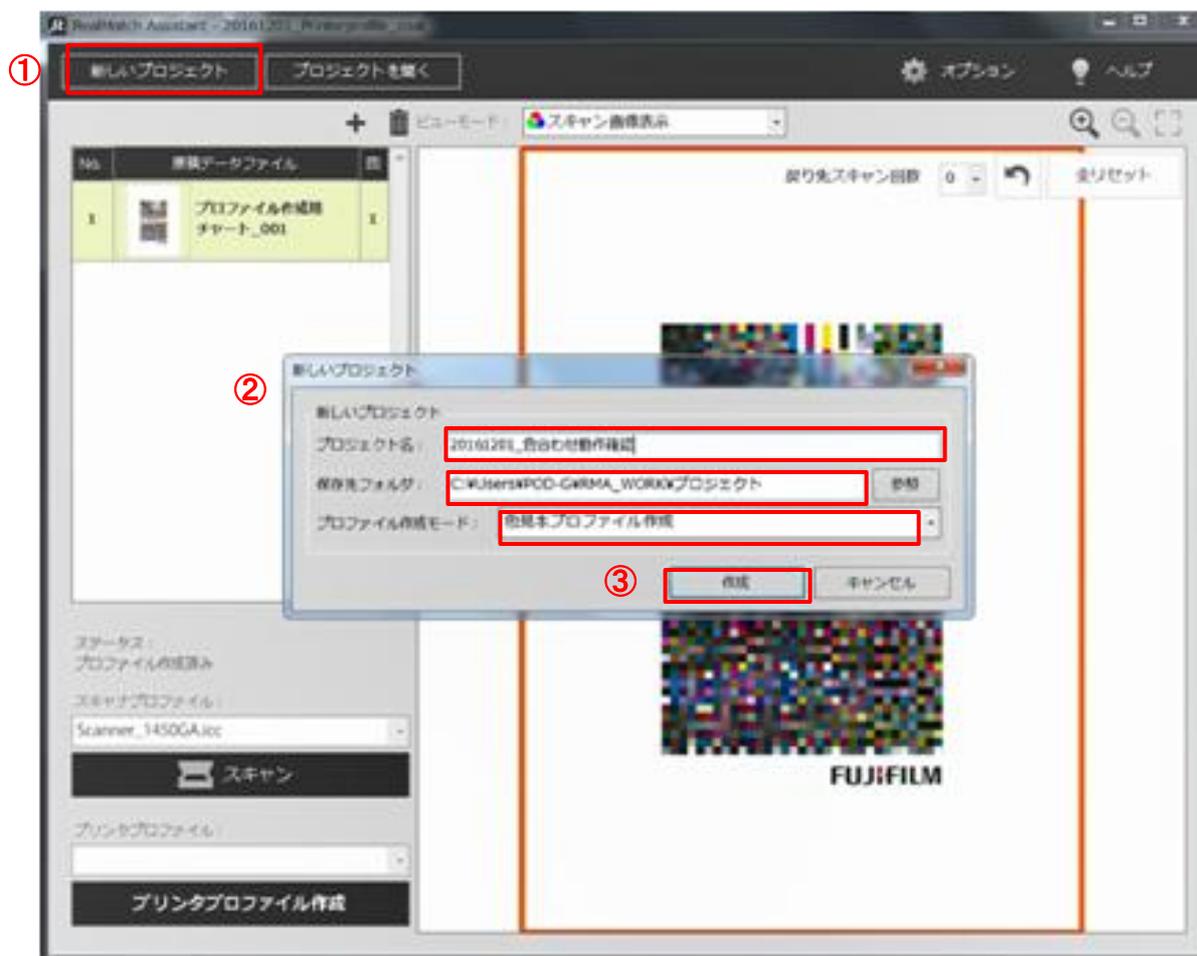


表5. 色見本プロファイルのプロジェクト

項目名	内容
プロジェクト名	プロジェクトに任意の名前を付けてください。例えば、「20161201_AAA」（AAA：JOB名）のように記載ください。下記「保存先フォルダ」の下に、プロジェクト名と同名のフォルダが作成され、プロジェクトに関わるデータが格納されます。
保存先フォルダ	プロジェクトに関わるデータを格納するフォルダを指定します。“C:¥ユーザー¥（ユーザー名）¥RMA_WORK¥プロジェクト”を選択してください。
プロファイル作成モード	「色見本プロファイル作成」であるか、「プリンタープロファイル作成」であるか選択できます。「色見本プロファイル作成」を選択してください。選択されたモードはメイン画面左下の「(色見本/プリンタ) プロファイル作成ボタン」に表示されます。(3-2-1.メイン画面⑦参照)

#### ※プロジェクトを削除する場合

プロジェクトを誤って作成した場合、プロジェクトが不要となった場合など、作成したプロジェクトを削除する場合は、エクスプローラにてプロジェクト保存フォルダを開き、削除したいプロジェクトフォルダごと削除を行ってください。

#### ※注意事項

一つのプロジェクトを作成する度にHDD 容量を 1GB 以上使用します。不要なプロジェクトはその都度削除することをお勧めします。

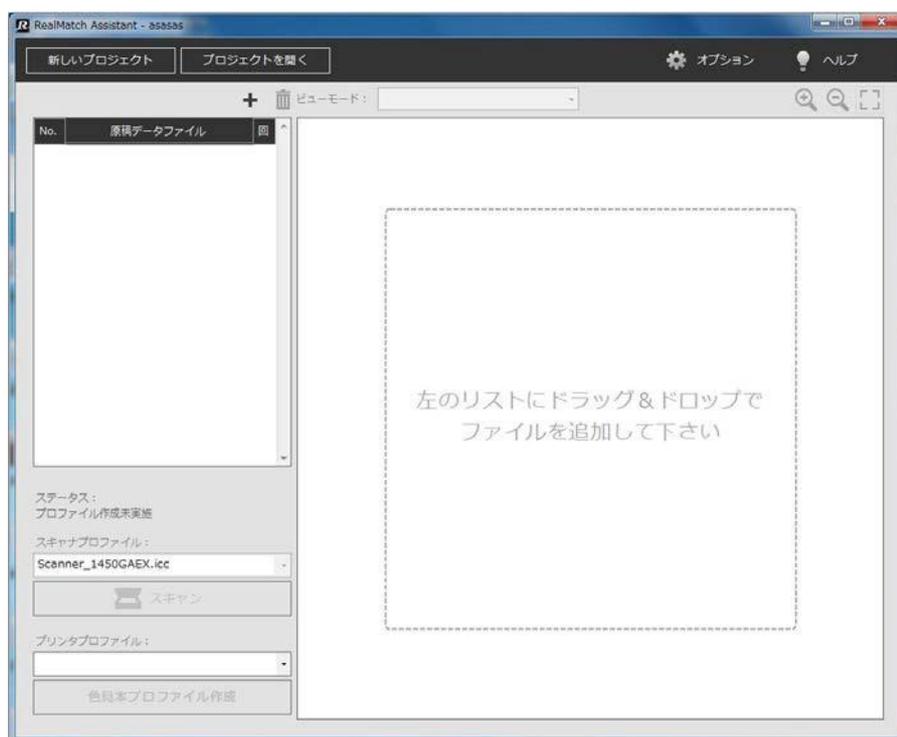
### 3-4-3. 原稿データの入力

原稿データを RMA ソフトウェアに入力します。原稿データの画像フォーマットは、PDF あるいは TIFF に対応しています。

下記 1) あるいは 2) の方法で、原稿データを入力することができます。

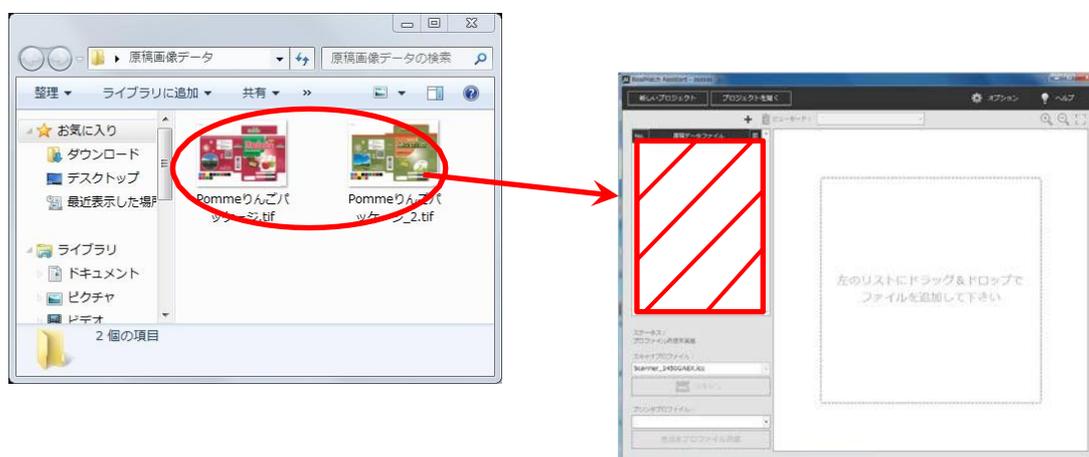
#### 1) ドラッグ&ドロップによる入力

1. プロジェクトを作成し、以下の画面になっていることを確認します。



2. Windows エクスプローラを開き、原稿データが格納されている“C:¥ユーザー¥(ユーザー名)¥RMA\_WORK¥原稿データ”を開きます。入力したい原稿データをドラッグし、下記原稿データファイル欄にドロップします。

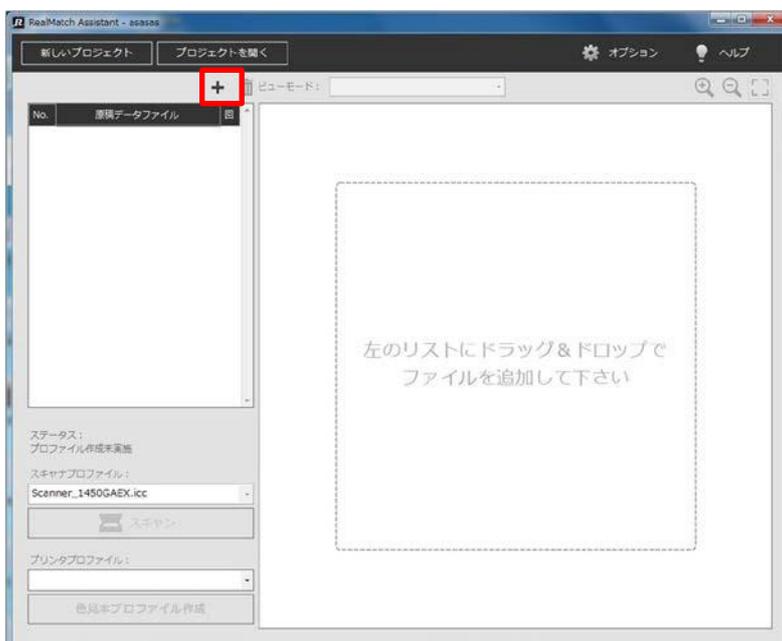
このとき複数の原稿データを選択した状態でドラッグ&ドロップすると、複数画像を一度に追加することができます。



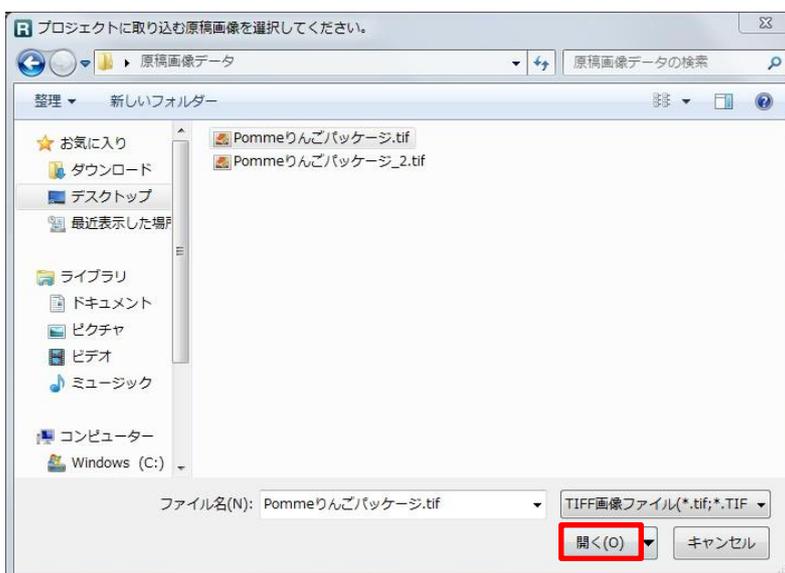
## 2) ファイル選択による入力

ファイル選択機能を使って原稿データを追加する場合は、以下の手順で行ってください。

1. プロジェクトを作成し、リスト上部にある追加ボタン（**+**）をクリックします。



2. ファイル選択ダイアログが開きますので、“C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥原稿データ”を指定し、入力したい原稿データを選択して「開く」をクリックしてください。複数枚の原稿データを一度に追加することも可能です。



RMAビューアー領域に、原稿データ画像が表示されます。

なお、容量が大きい原稿データの場合、追加に時間が掛かります。原稿データの追加処理中は、処理状況を示す「原稿データ追加」ダイアログが表示されます。最大 999 の原稿データを追加することができます。この「原稿データ追加」ダイアログの「中止」ボタンをクリックすると、原稿データの追加を中止することができます。

### 補足：追加する画像の枚数について

RMA ソフトウェアでは、1つのプロジェクトで原稿データを複数枚入力することができます。

1つのプロジェクトから作成されるプロファイルは1つですので、用途に応じて入力する原稿データの枚数（例：色合わせ必要なページのみ）を決定してください。

表6. 原稿枚数に応じたプロファイル作成

原稿の枚数	作成されるプロファイル	想定される利用方法
一枚	1枚の色見本のスキャンデータから1つのプロファイルを作成する。	一枚ものの印刷物 ・チラシ ・メニュー ・パッケージ など
複数枚	複数ページのスキャンデータを統合して1つのプロファイルを作成する。	複数ページ間で同一の色を再現する必要がある印刷物 ・カタログ ・複数ページのチラシ など



原稿画像 A



ProfileA.icc

(Aの情報から作成したプロファイル)



原稿画像 A



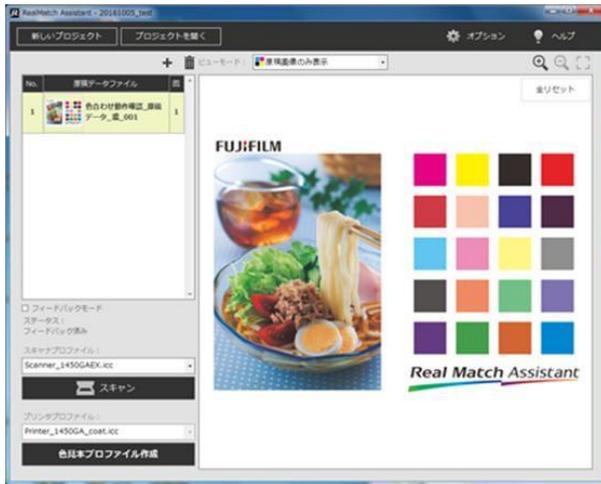
原稿画像 B



ProfileAB.icc

(AB両方の情報から作成したプロファイル)

3. 原稿データの入力完了すると、原稿データファイル欄に原稿データのサムネイルとファイル名が表示されます。原稿データファイル欄の画像を選択すると、メイン画面のビューア領域に画像が表示されます。



原稿データが一つの場合



原稿データが複数の場合

4. ビューア領域に画像が表示されている場合、画像の拡大・縮小操作が可能となります。操作方法は以下の通りです。

表7. 拡大縮小機能

項目名	内容	アイコン
拡大	画面右上にある拡大アイコンをクリックしてください。もしくは、マウスホイールを上を回転してください。画像の原寸サイズまで拡大が可能です。	
縮小	画面右上にある縮小アイコンをクリックしてください。もしくは、マウスホイールを下を回転してください。プレビュー領域にフィットするまで縮小が可能です。	
フィット	画面右上にあるフィットアイコンをクリックしてください。画像が拡大表示されている場合に、プレビュー領域にフィット表示することが可能です。	
移動	拡大した状態で、画像をドラッグしてマウスを移動すると、表示範囲をスクロールして移動できます。	なし

5. 一度画像を入力した後でも、更に画像を追加することが可能です。その場合は、再度上記 1) および 2) のステップ 2 を実施して新たな画像を追加してください。

### ※原稿データを削除する場合

1. 原稿データファイル欄で、削除したい画像を選択します。  
複数画像をまとめて削除する場合は、キーボードのCtrlキーを押しながら、複数画像を選択してください。
2. 削除ボタン (  ) をクリックします。  
「確認」ダイアログが表示されますので、問題がなければ「はい」をクリックしてください。スキャン完了後の場合は、RMAに取り込まれたスキャンデータも合わせて削除されます。

## 3-4-4. スキャン

原稿データに対応する色見本をPODプリンター付属のスキヤナでスキャンして読み込みます。

### 1) 色見本のセット

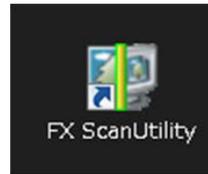
1. PODプリンターのスキヤナの蓋を開けて、スキャンする色見本をセットします。このとき、スキャンする面を下に向け、色見本の上に数枚の白紙を乗せてください。

### 2) Scan Utilityの実行

1. デスクトップ上にある以下の富士ゼロックス株式会社製「ScanUtility」アイコン (PX Print Server) あるいは「FX ScanUtility」アイコン (GX Print Server) をダブルクリックしてください。

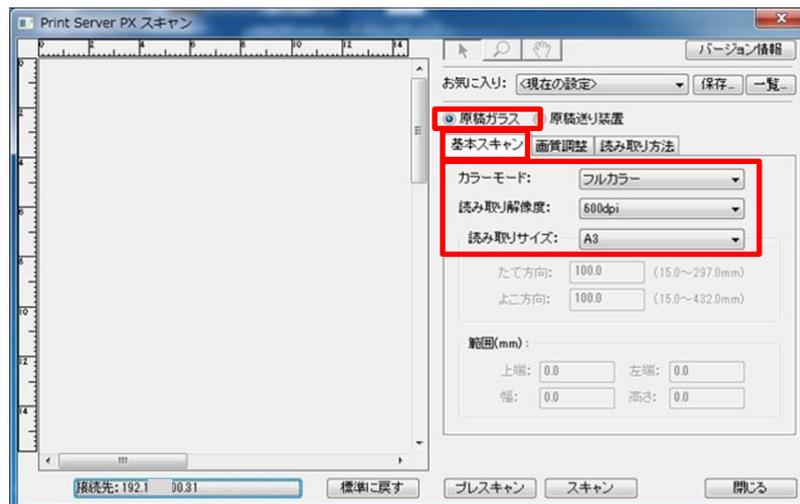


PX Print Serverの場合

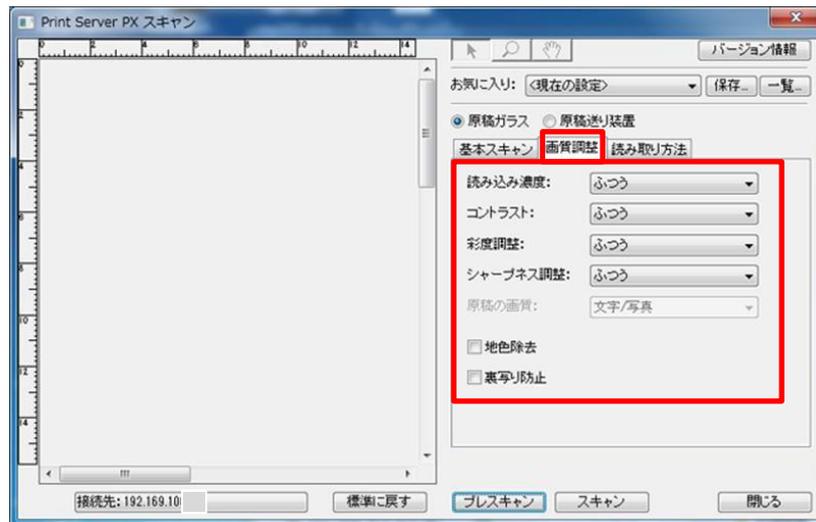


GX Print Serverの場合

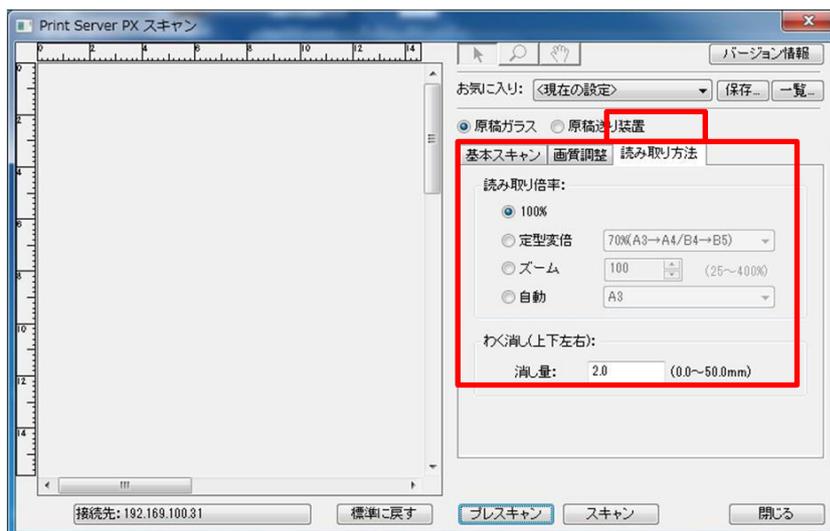
2. PX Print Serverの場合は、「Print Server PXスキャン」ダイアログ、GX Print Serverの場合は、「Print Serverスキャン」ダイアログが表示されます。「Print Server PXスキャン」あるいは「Print Serverスキャン」ダイアログの各条件を以下の通りに設定してください。「カラーモード」は「フルカラー」、「読み取り解像度」は600dpi、「読み取りサイズ」は色見本のサイズに応じて設定してください。



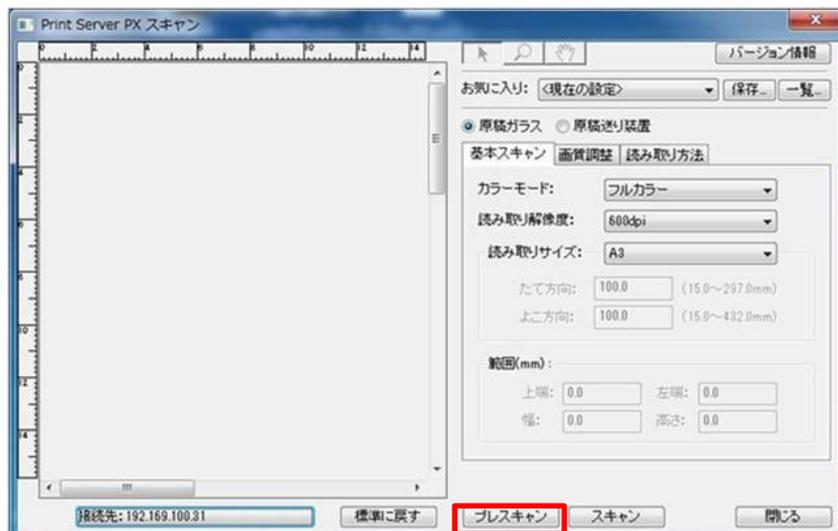
3. 「画質調整」をクリックし、以下のように条件を設定してください。「読み込み濃度」、「コントラスト」、「彩度調整」、「シャープネス調整」全てを「ふつう」とし、「地色除去」、「裏写り防止」はチェックなしにしてください。



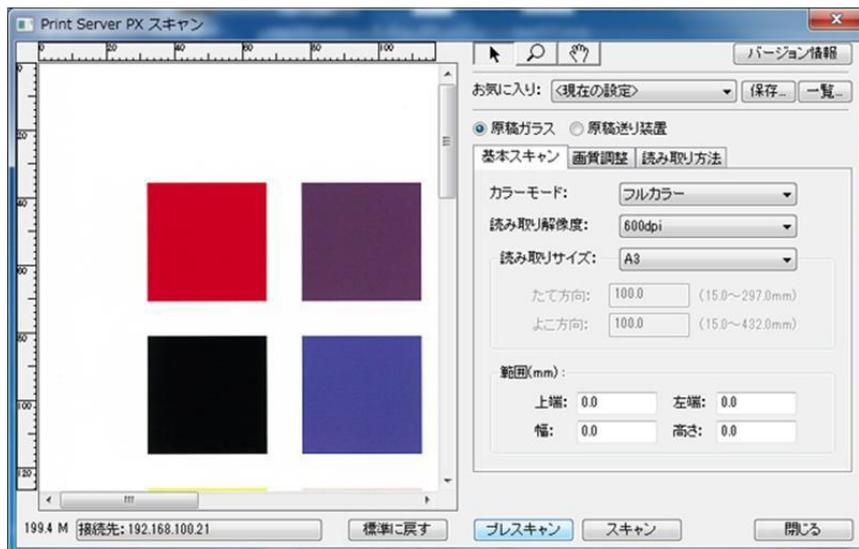
4. 「読み取り方法」をクリックし、以下のように条件を設定してください。「読み取り倍率」100%、「わく消し」2.0に設定してください。



5. 「プレスキャン」をクリックしてください。なお、プレスキャンは2～3分かかります。



6. プレスキャン終了後、スキャン画像が以下のように表示されます。



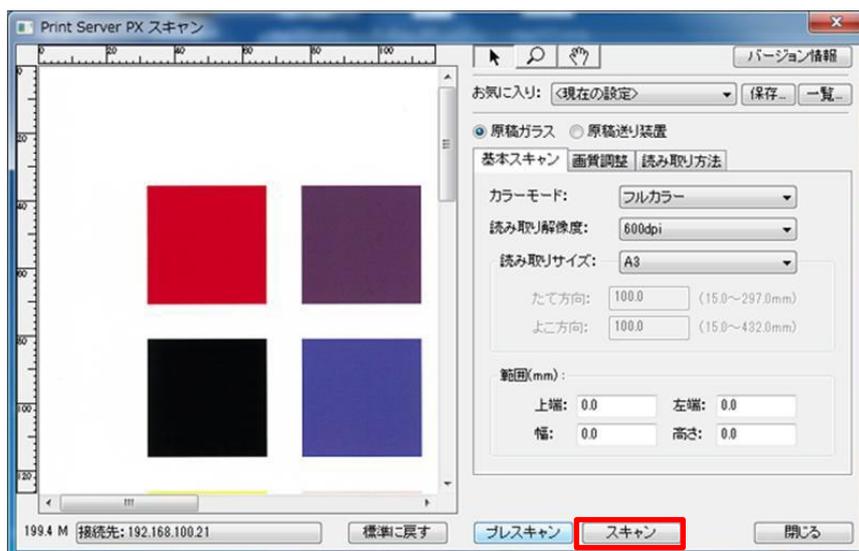
<注意事項>

色見本スキャンデータの中に原稿データに存在しない部分があると、色合わせ精度が低下する場合があります。色見本のサイズが読み取りサイズに満たない場合（例えばオフセット印刷の塗り足し部分をカットした場合）、周囲に色見本ではないデータが入らないように、プレスキャンデータをトリミングしてください。

スキャンデータ全面が表示されるように、画面を広げてください。右上の矢印ボタンを選択し、トリミング領域をドラッグして指定してください。



7. 「スキャン」ボタンをクリックしてください。

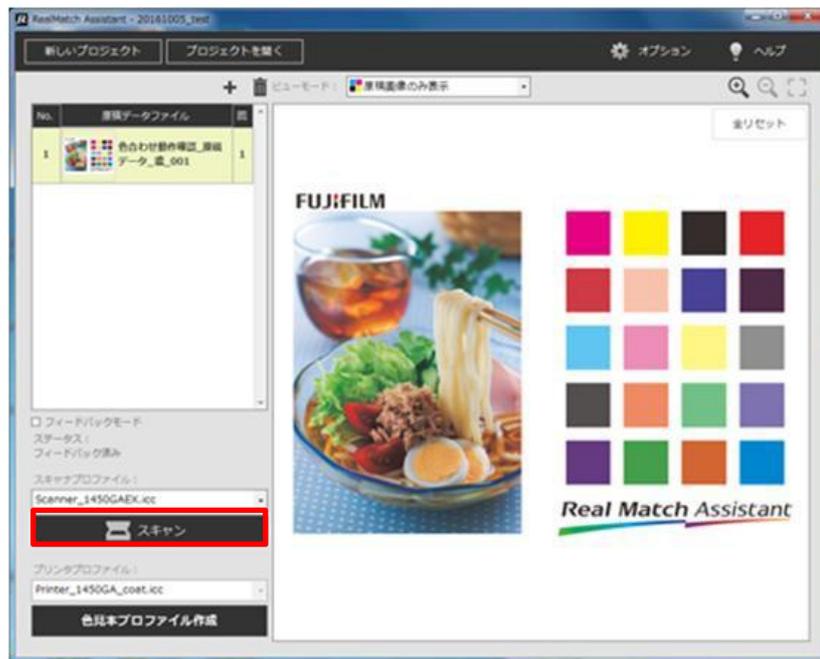


8. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。“C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥スキャンデータ”を指定し、JOBの種類とフィードバック回数が確認できるファイル名(例) 20161201\_AAA\_FB0) を記載し、ファイルの種類を「Tiff」として「保存」ボタンをクリックしてください。

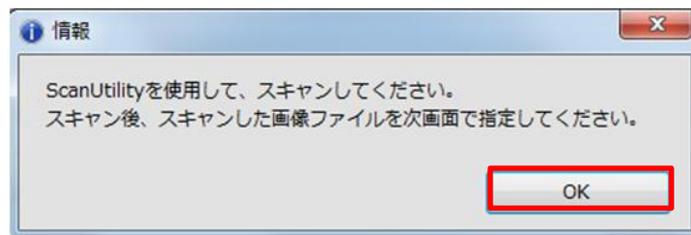


### 3) スキャンデータの取り込み

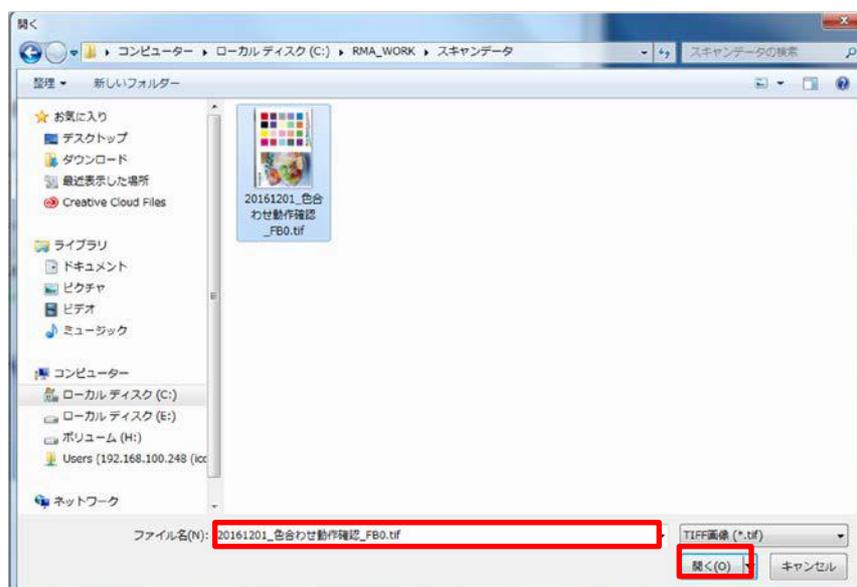
1. スキャンデータの保存が完了したら、RMA メイン画面に戻り、「スキャン」ボタンをクリックしてください。



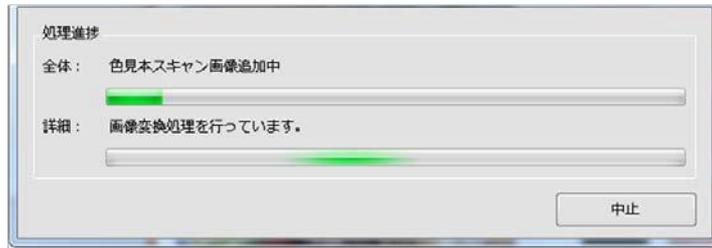
2. 「OK」ボタンをクリックしてください。



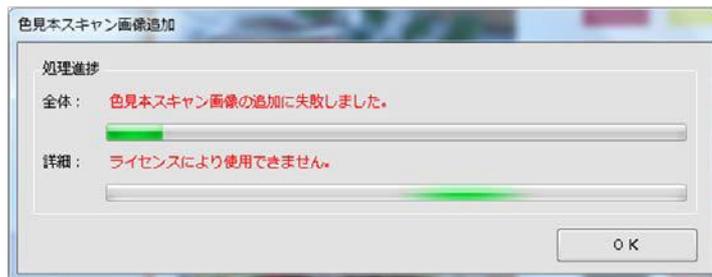
3. 保存したスキャンデータを RMA ソフトウェアに取り込むため、「2) ScanUtility の実行」7. で保存したスキャンデータを選択し、「開く」をクリックしてください。



4. 以下のダイアログが表示され、終了するまで、2, 3 分かかります。原稿データと取り込まれたスキャンデータの位置合わせを実行しています。原稿データとスキャンデータの位置合わせができない場合、以下のエラーメッセージが表示されます。両者のサイズが異なっている、両者の絵柄が異なっている、位置合わせできない絵柄（4. 注意事項参照）が原因です。確認してください。

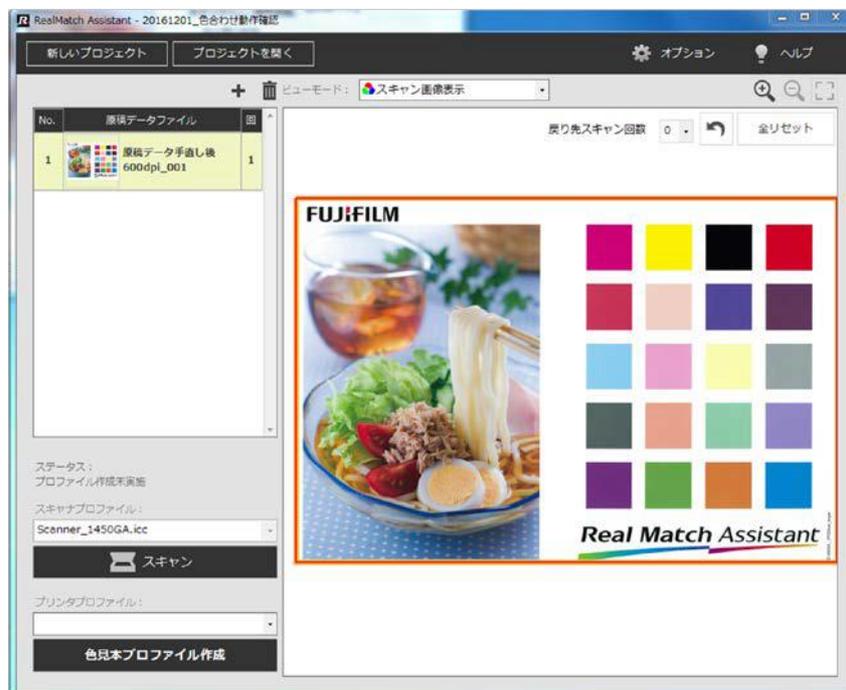


実行中を示すダイアログ



エラーメッセージ

5. 正常に終了すると、以下のようにスキャンデータが原稿データの上に重なった状態でビューア領域に表示されます。



スキャン実施後は、ビューア領域の表示方法をビューア領域左上にある「ビューモード」のプルダウンメニューで切替えることができます。各表示モードは以下の通りです。

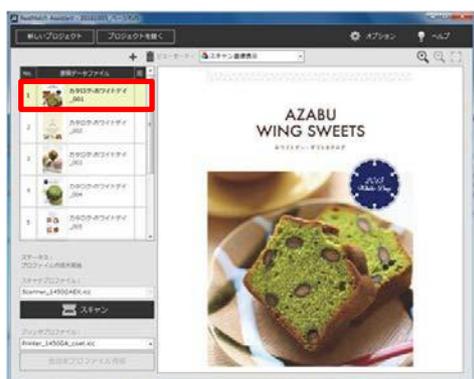
表 8. 画像表示機能

項目名	内容	アイコン
スキャン画像表示	原稿データ画像の上にスキャン結果を重ねて表示します。スキャン結果を確認したい場合はこちらを選択します。	
原稿画像のみ表示	スキャン結果を表示せず、原稿データ画像のみを表示します。	
スキャン位置表示	スキャン結果を表示せず、スキャンが行われた位置のみを表示します。	

#### ◆複数ページ色見本の場合

原稿データを複数入力した場合は、色合わせが必要な原稿データごとに対応する色見本をスキャンし、RMAソフトウェアにスキャンデータを取り込んでください（3-4-4. スキャン（P.29）参照）。

1. 一枚目の原稿データを原稿データファイル欄から選択して、対応する色見本をスキャンし、RMAソフトウェアにスキャンデータを取り込んでください。
2. 一枚目の原稿データのスキャンが完了したら、二枚目の原稿データを原稿データファイル欄から選択して、対応する色見本をスキャンし、RMAソフトウェアにスキャンデータを取り込んでください。



一枚目の原稿データに対するスキャンを実施



二枚目の原稿データに対するスキャンを実施



### ◆A3 超色見本の場合

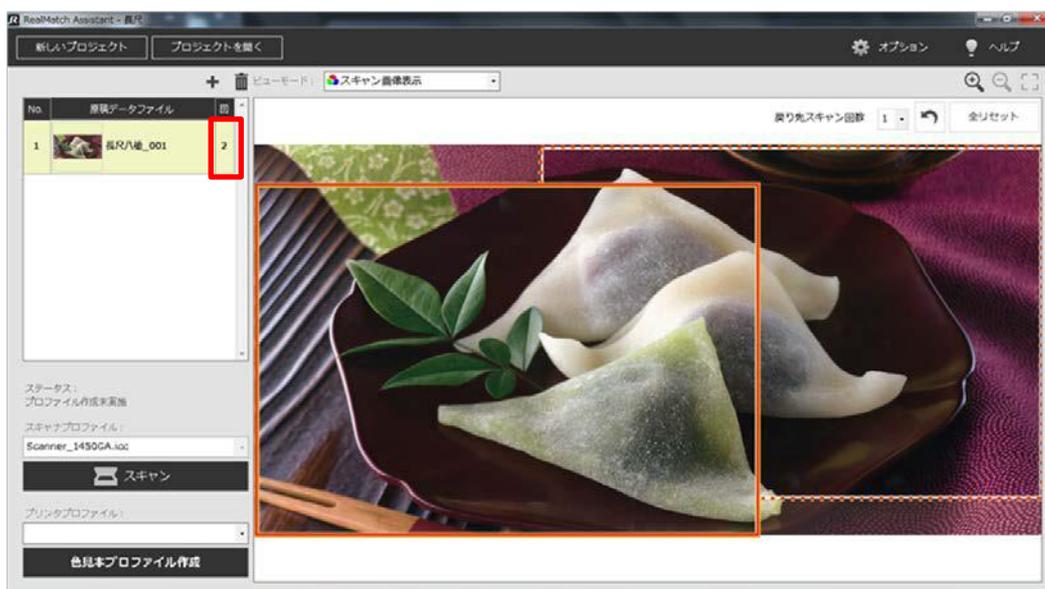
原稿データおよび色見本が A3 より大きく、一度で全ての領域をスキャンできない場合は色見本の位置をずらし、複数回に分けてスキャンしてください（3-4-4. スキャン (P.29) 参照）。RMAソフトウェアでは、原稿データの一部領域を分割してスキャンした場合も、自動でスキャンデータと原稿データの位置合わせを行います。

長尺出力の場合（Versant V180/80 Press）などに、ご利用ください。

1. 色見本をスキャンし、RMAソフトウェアにスキャンデータを取り込んでください。スキャンさせた領域が赤枠で表示されます。



2. 上記ステップ1以外の領域をスキャンし、RMAソフトウェアにスキャンデータを取り込んでください。スキャンさせた領域が赤枠で表示され、1回目のスキャン領域を点線枠で表示します。原稿データファイル欄右端にスキャン回数として“2”と表示されます。最大99回までスキャンすることができます。



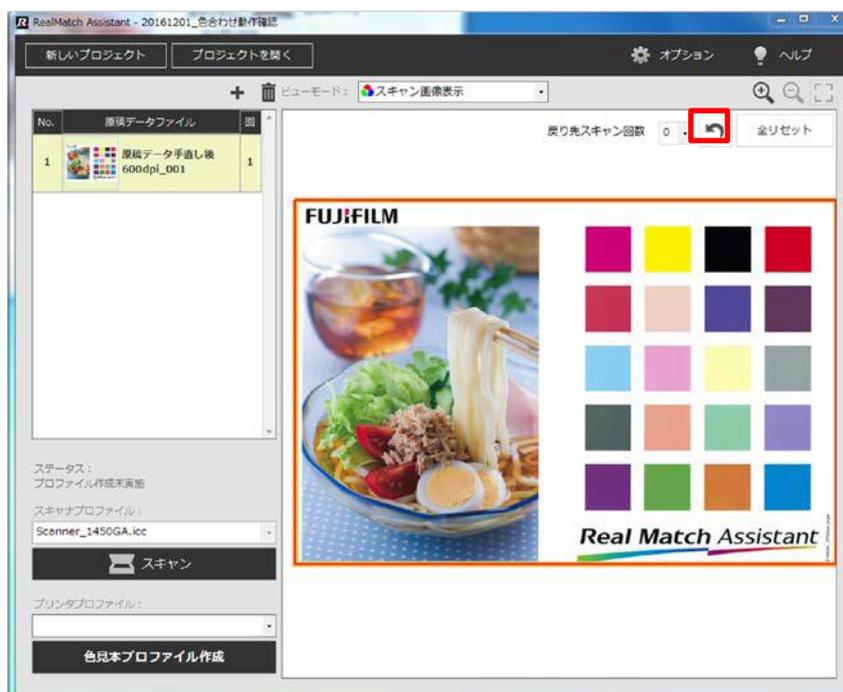
## ※RMAに取り込まれたスキャンデータを削除する場合

RMAに取り込まれたスキャンデータの削除方法には、以下の二種類があります。

なお、削除操作は取り消すことが出来ませんのでご注意ください。スキャンデータを削除しますと、「3) スキャンデータの取り込み」で、再度スキャンデータを取り込む必要があります。

### ◆直前のスキャン結果を削除する

1. スキャンを行うと、ビューア領域にアンドウボタン (  ) が表示されます。



2. アンドウボタンをクリックしてください。  
なお、戻り先スキャン回数を指定しアンドウボタンをクリックすると、戻り先スキャン回数で指定した以降のスキャンデータを削除し、戻り先スキャン回数で指定した回数のスキャン状態にスキャン結果を戻すことができます。アプリを終了したり、他のプロジェクトを開くとアンドウは行えなくなります。

### ◆全てのスキャン結果を削除する

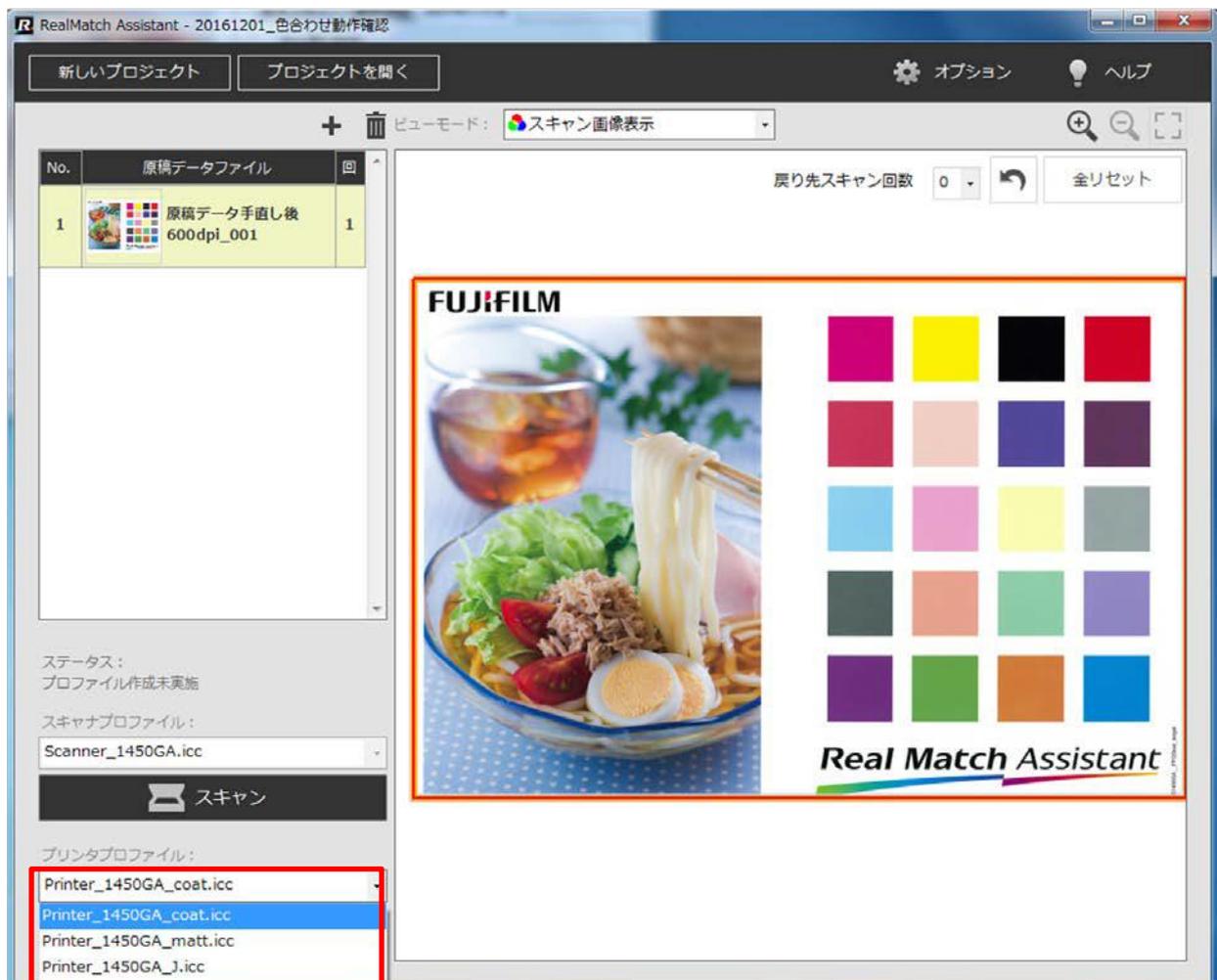
1. 原稿データにスキャン結果が1枚以上ある場合、ビューアの右上に「全リセット」ボタンが表示されます。
2. 「全リセット」ボタンをクリックすると、その原稿データのスキャン結果をすべて削除します。

### 3-4-5. プリンタープロファイルの選択

色見本プロファイルを作成する場合、プルダウンメニューより出力用紙に対応したプリンタープロファイルを選択してください。プリンタープロファイルのファイル名は以下のように表記されます。プリンタープロファイルを更新した場合においてもプルダウンメニュー上のファイル名は変わりません（プリンタープロファイルはRMAシステムで管理しています）。

Printer\_デバイス名\_紙種.icc

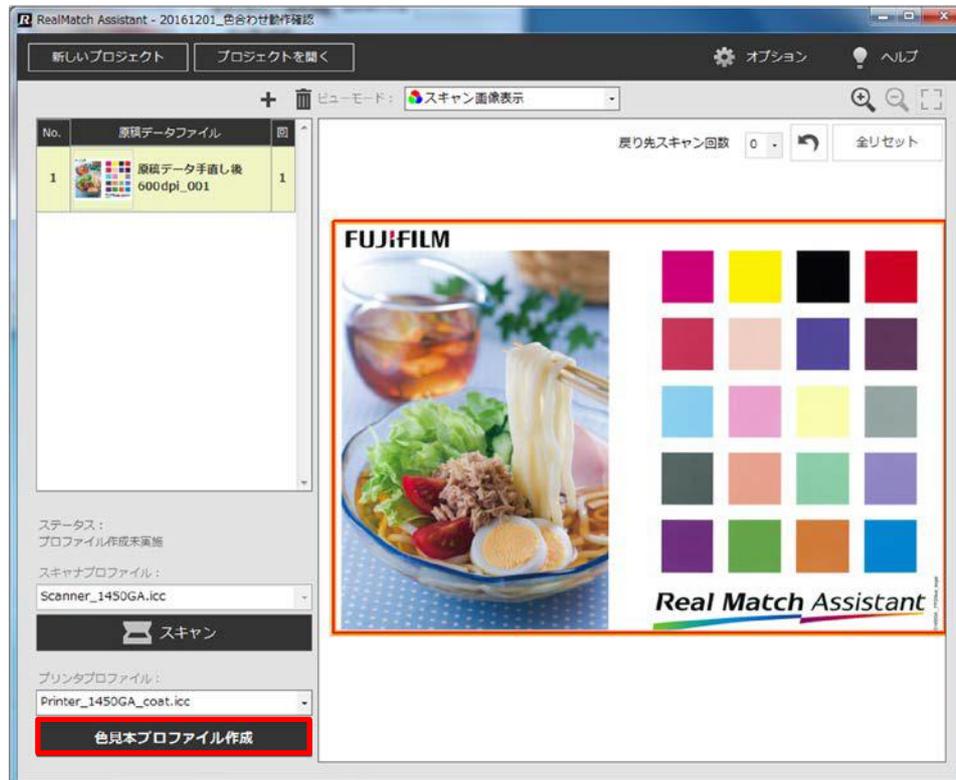
- 例)
- ・コート紙 : Printer\_1450GA\_coat.icc
  - ・マット紙 : Printer\_1450GA\_matt.icc
  - ・J紙 : Printer\_1450GA\_j.icc



### 3-4-6. 色見本プロファイルの作成

スキャン完了、プリンタープロファイル選択後、色見本プロファイルを作成します。

1. スキャンを一回以上行くと、プロファイルを作成することができます。画面左下にある「色見本プロファイル作成」ボタンをクリックしてください。



2. 「プロファイル出力先」ダイアログが表示されるため、下記表9の通り入力を行い、「保存」ボタンをクリックしてください。

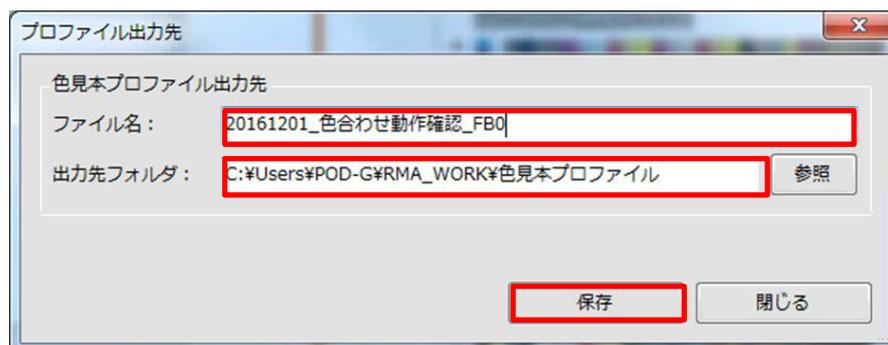
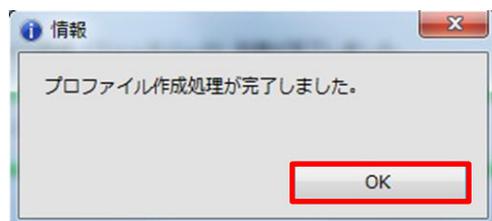


表9. 色見本プロファイルのファイル名と出力先

項目名	内容
ファイル名	色見本プロファイルのファイル名を指定します。 例) 20161201_AAA_FB0等、わかりやすいファイル名を指定ください。“AAA”はJOB名、“FB0”はフィードバックの回数を示します。OSで禁じられている文字に加え、“.”(ドット)は使用しないでください。
出力先フォルダ	プロファイルの保存場所を選択します。“C:\ユーザー*(ユーザー名) *RMA_WORK*色見本プロファイル”を選択してください。

3. 正常に色合わせが完了すると、以下のダイアログが表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。



以上で、色見本プロファイルの作成は完了となります。

### ※デフォルトのプリンタープロファイルを使用する場合

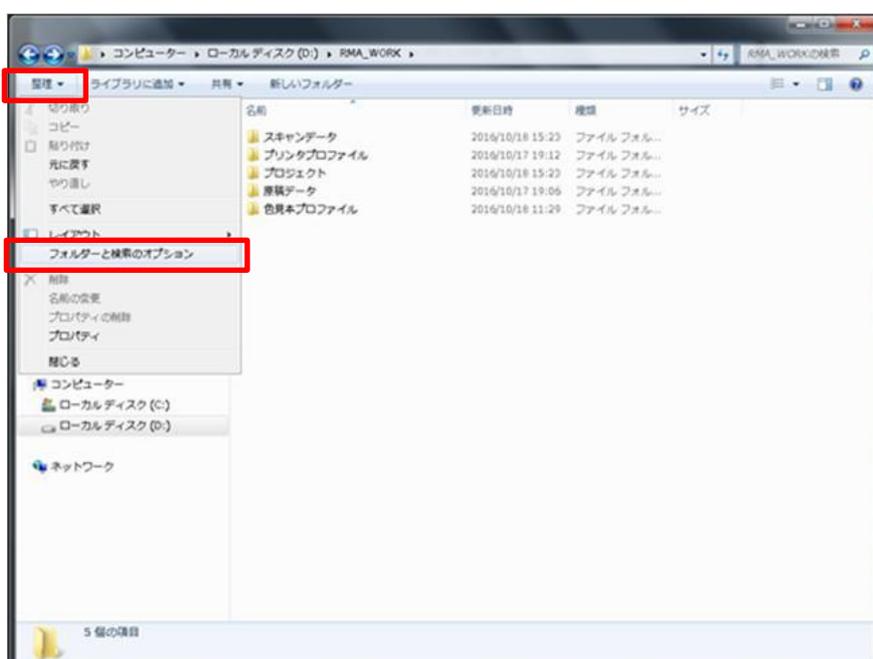
以下のフォルダに格納されているデフォルトプリンタープロファイルを"C:¥ユーザー¥RMA\_WORK¥プリンタープロファイル"へコピーしてください。

**C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥AppData¥Local¥FUJIFILM¥RealMatch Assistant  
¥PrinterProfile¥Scanner¥DocuColor 1450 GA¥Default (DocuColor 1450 GA の場合)**

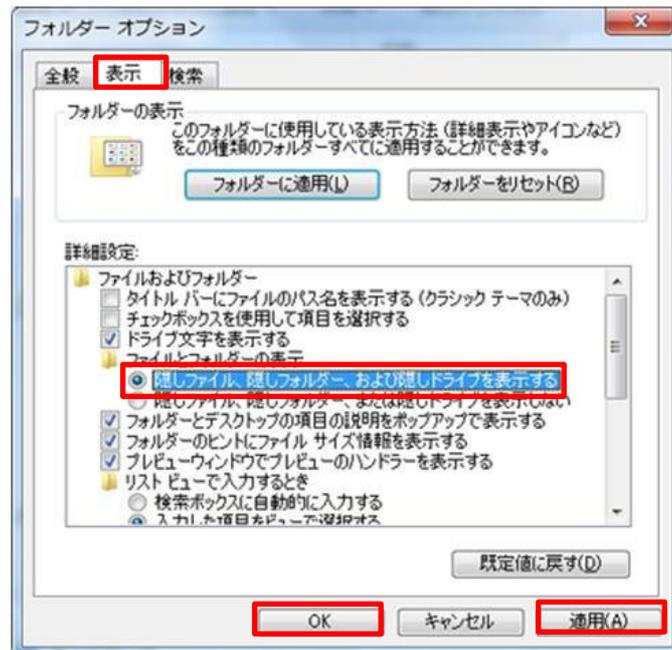
なお、AppData フォルダは隠しファイルとなっていますので、隠しファイルを表示させて操作を行ってください。隠しファイルを表示させる方法は以下の通りです。

隠しファイルは Windows システム上重要なファイルです。コピー操作にはご注意ください。

1. 「整理」プルダウンメニューから、「フォルダと検索のオプション」をクリックしてください。



2. 「表示」タブをクリックし、「ファイルとフォルダ表示/隠しファイル、隠しフォルダおよび隠しドライブを表示する」にチェックを入れ、「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリックしてください。



3. デフォルトプリンタープロファイルの“C:¥ユーザー¥RMA\_WORK¥プリンタープロファイル”へのコピーが終了しましたら、隠しファイル表示を元に戻してください。

### 3-4-7. 作成したプロファイルの確認

作成した色見本プロファイルとプリンタープロファイル、および印刷対象の原稿データは、PODプリンター Print Server と共有化されている以下のフォルダに格納されています。確認してください。

- C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥色見本プロファイル
- C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥プリンタープロファイル
- C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK¥原稿データ

PODプリンター Print Serverとフォルダ共有化していない場合は、USBメモリなどにコピーして、PODプリンターPrint Server内にコピーしてください。

色見本プロファイルとプリンタープロファイルを一緒にしたデバイスリンクプロファイルの作成と、このプロファイルにより原稿データを処理し色合わせ印刷物を作成する方法は、次節以降を参照してください。

### 3-5. デバイスリンクプロファイルの作成

本節では、PODプリンターPrint Server内において、前節で作成した色見本プロファイルとプリンタープロファイルと一緒にしたデバイスリンクプロファイルの作成方法について説明します。

なお、下記 UI 画面は一例です。詳細は富士ゼロックス株式会社提供の該当商品のマニュアルをご覧ください。

- ・ Print server には GX Server (Versant 80 Press、Versant 180 Press) と PX server (DocuColor 1450 GA、DocuColor 7171 P) の 2 種類があり、操作が異なります。GX Print Server は、3-5-1. (P.41)、PX Print Server は、3-5-2. (P.49) を参照してください。
- ・ RMAソフトウェアがインストールされているパソコンとPODプリンターPrint Server間で“C:¥ユーザー ¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK”を共有化する場合、Print Server デスクトップ上に、GX Print Server の場合は、“C:¥ユーザー ¥ (ユーザー名) ¥RMA\_WORK”のコピー、PX Print Server の場合は、ショートカットが作成されていることを確認してください。(事前準備編P.26 参照)

#### 3-5-1. GX Print Server

色見本プロファイルとプリンタープロファイルを合わせたデバイスリンクプロファイルを作成します。

「cmyk 入カプロファイル」で色見本プロファイル、「出カプロファイル」でプリンタープロファイルを読み込み、「デバイスリンクプロファイル」で両者を合わせたデバイスリンクプロファイルを作成します。

なお、Print Server V1.6以上は、ステップ1の後、ステップ9にて直接「cmyk 入カプロファイル」（色見本プロファイル）および「出カプロファイル」（プリンタープロファイル）を設定することができます。

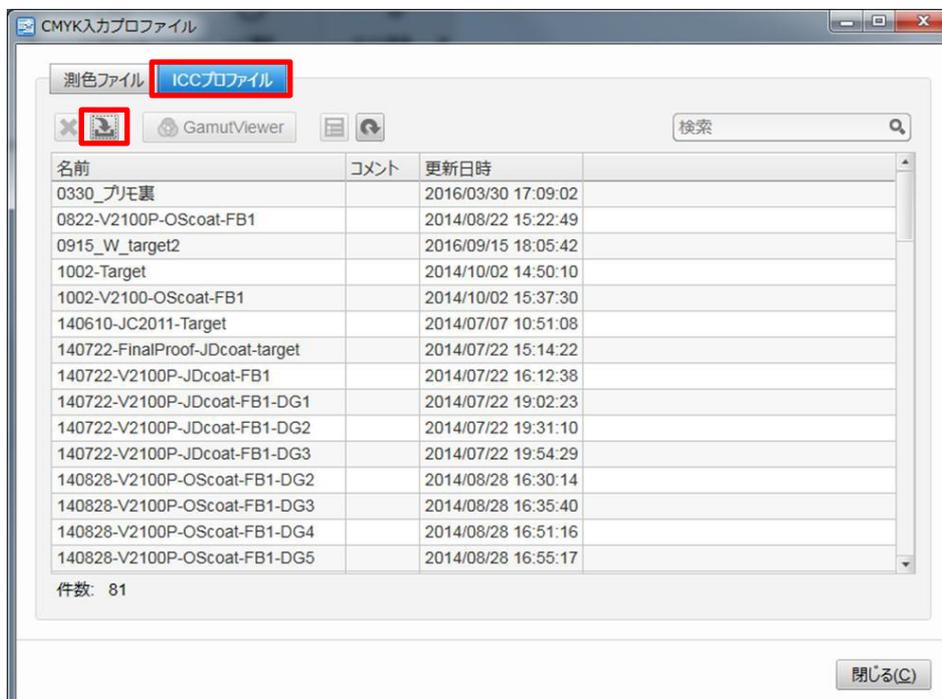
1. 「カラーリソース/CMS」をクリックしてください。

名前	コメント	最終更新日時
#A3-A4-Repeat	#A3-A4-Repeat2x1	2015/08/26 0:02:35
#A3-A4-Saddles	#A3-A4-SaddleStitching2x1(Left Binding)	2015/08/26 0:02:34
#A3-A4-SaddleStitching2x1(Right Binding)	#A3-A4-SaddleStitching2x1(Right Binding)	2015/08/26 0:02:34
#A4-NameCard(Land.)-Repeat4x2	#A4-NameCard(Land.)-Repeat4x2	2015/08/26 0:02:34
#A4-NameCard(Land.)-Repeat5x2	#A4-NameCard(Land.)-Repeat5x2	2015/08/26 0:02:34
#A4-NameCard(Port.)-Repeat4x2	#A4-NameCard(Port.)-Repeat4x2	2015/08/26 0:02:35

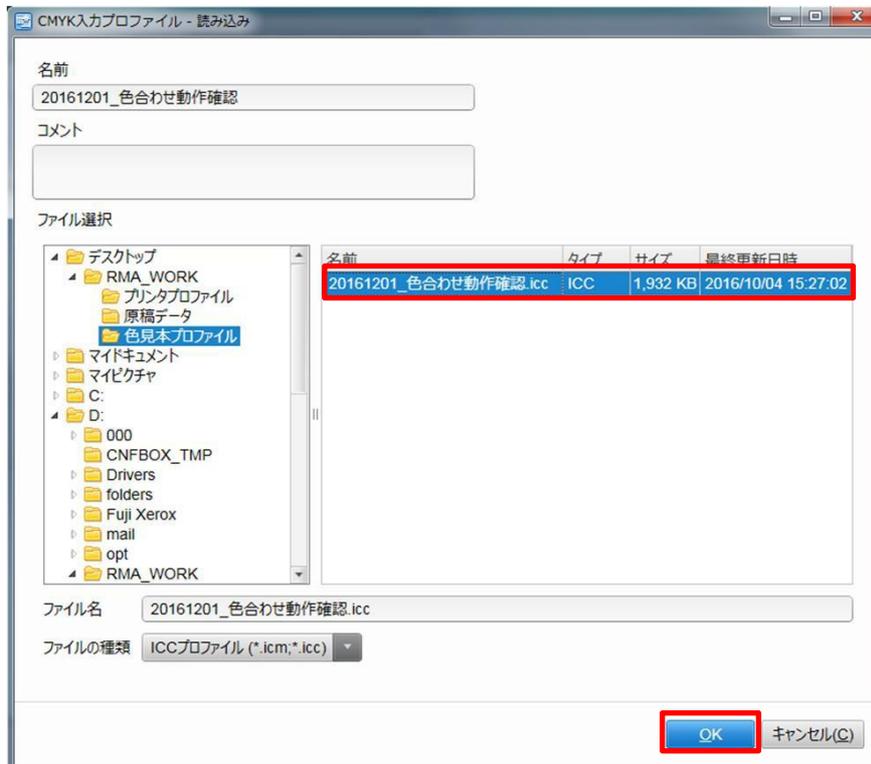
- 「Color Management System Workflow」内の「CMYK入カプロファイル」を選択してください。共有化されているRMA\_WORKフォルダ下の色見本プロファイルを読み込みます。



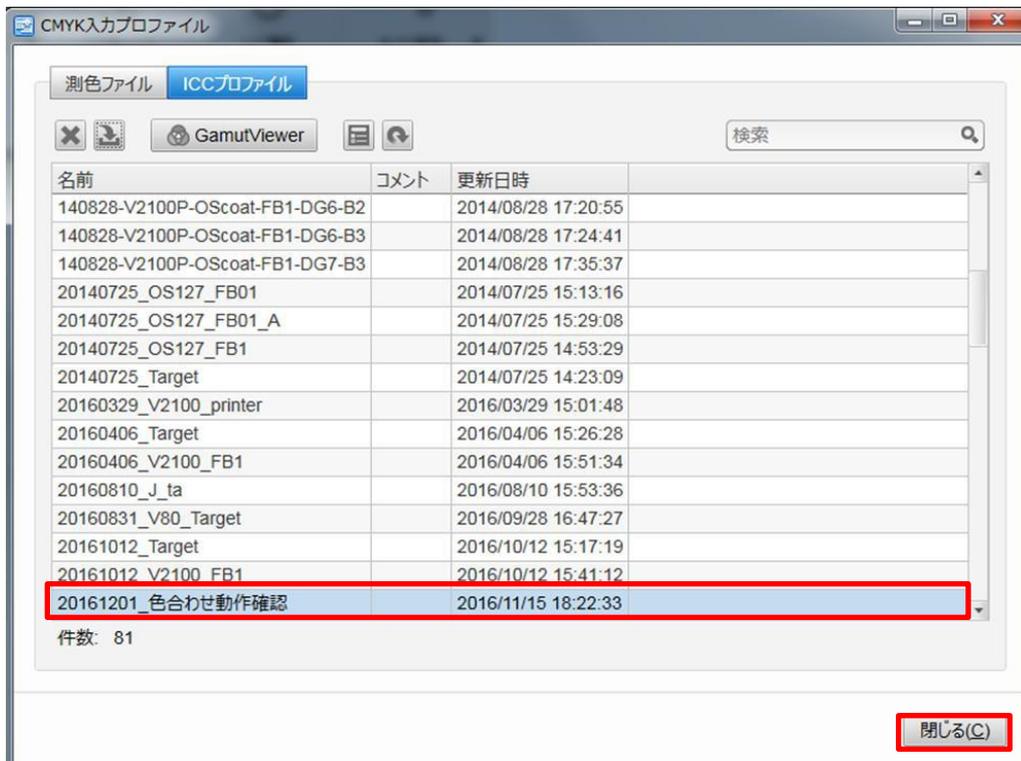
- 「CMYK 入カプロファイル」ダイアログが開きますので、「ICCプロファイル」ボタンをクリックし、左上の「取り込み」ボタンをクリックしてください。



4. 「CMYK入カプロファイル・取り込み」ダイアログが開きますので、「ファイル選択」より、ICC形式の色見本プロファイルを選択し、「OK」をクリックしてください。



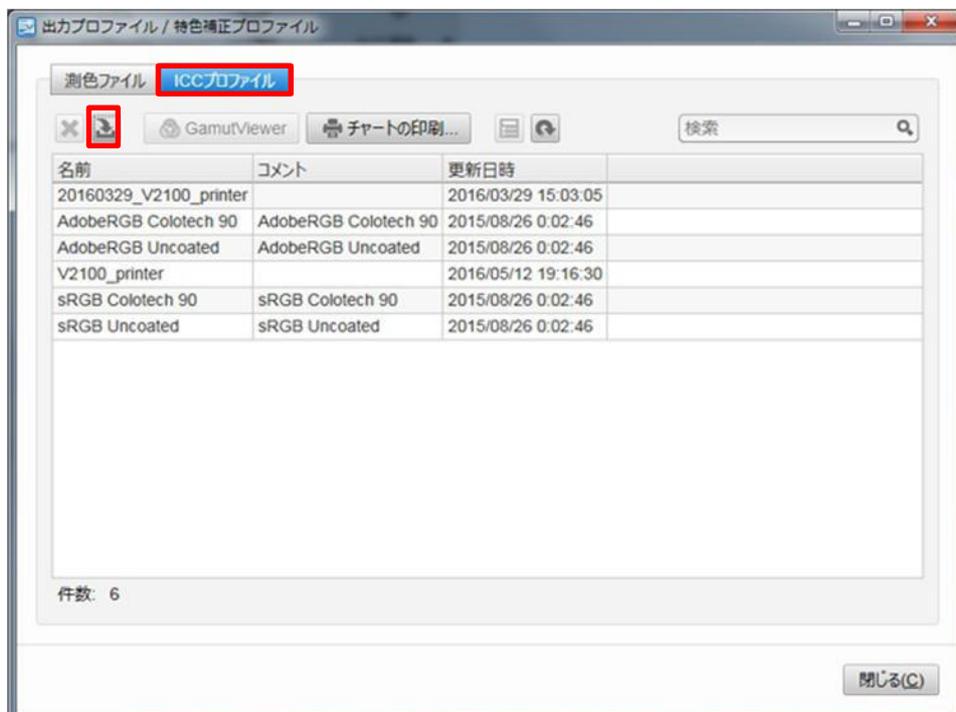
5. 「ICC プロファイル」欄に選択した色見本プロファイルができていることを確認し、「閉じる」をクリックしてください。



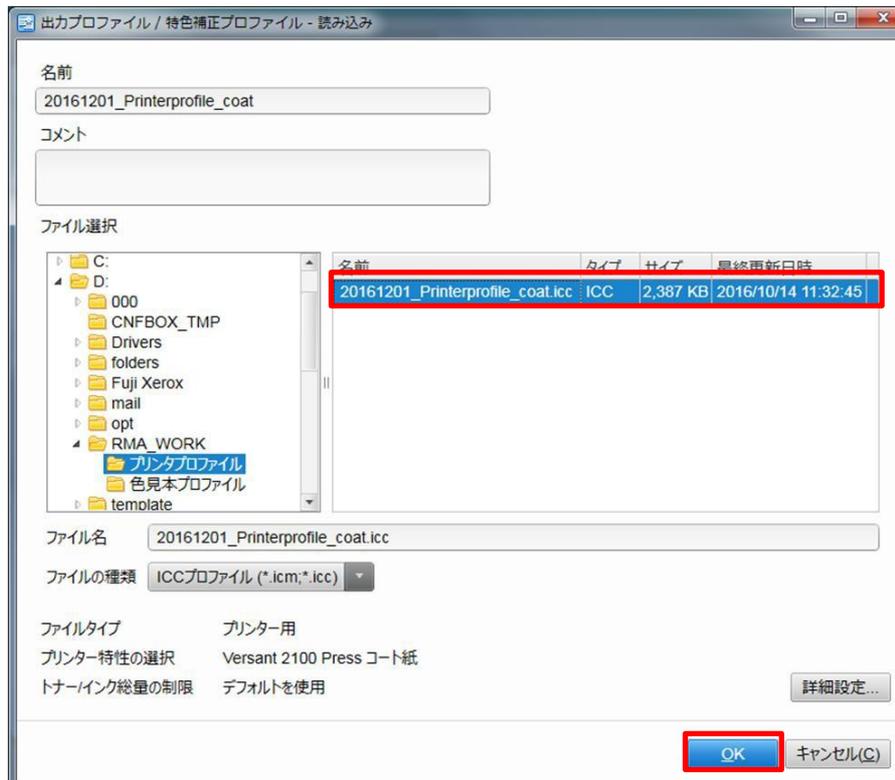
6. 「Color Management System Workflow」内の「出カプロファイル」をクリックしてください。共有化されているRMA\_WORKフォルダ下のプリンタープロファイルを読み込みます。



7. 「出カプロファイル/特色補正プロファイル」ダイアログが開きますので、「ICCプロファイル」ボタンをクリックし、左上の「取り込み」ボタンをクリックしてください。



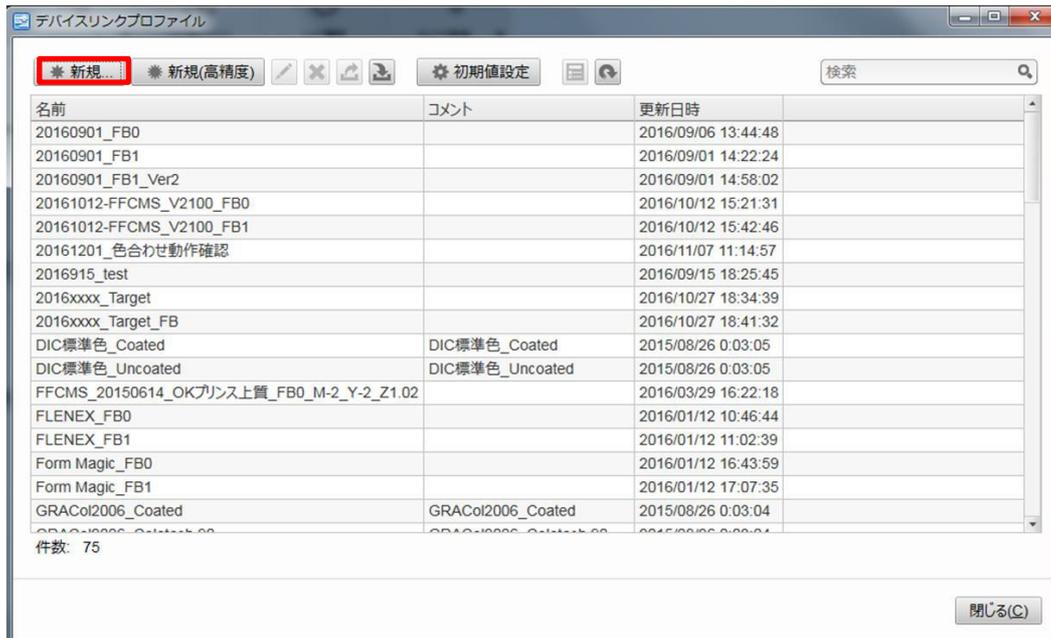
8. 「出カプロファイル/特色補正プロファイル・読み込み」が開きますので、「ファイル選択」より、ICC形式のプリンタープロファイルを選択し、「OK」をクリックしてください。



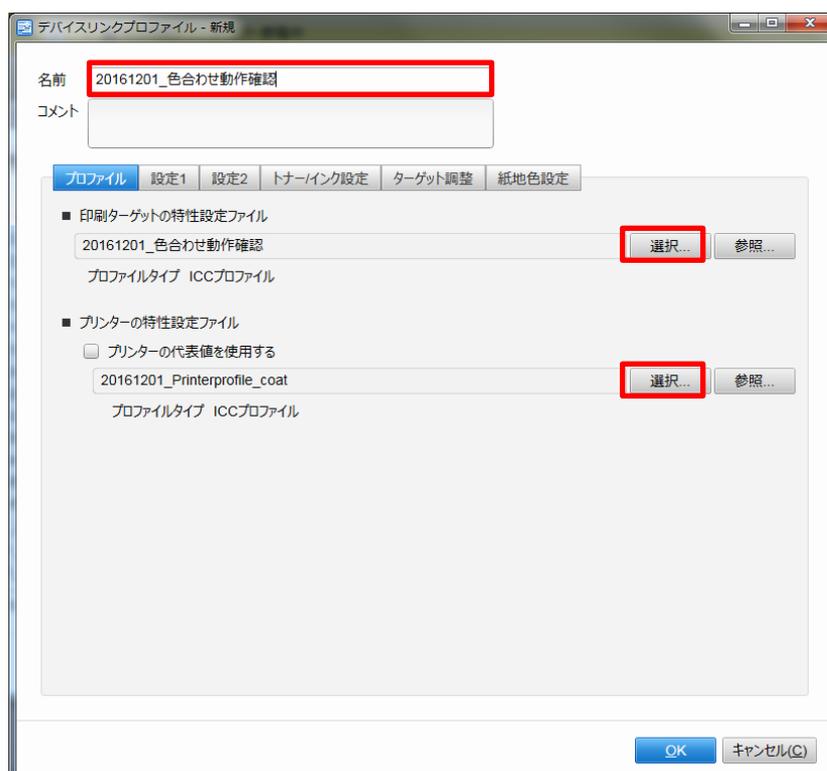
- 9 「Color Management System Workflow」内の「デバイスリンクプロファイル」をクリックしてください。色見本プロファイルとプリンタープロファイルを設定し、デバイスリンクプロファイルを作成します。



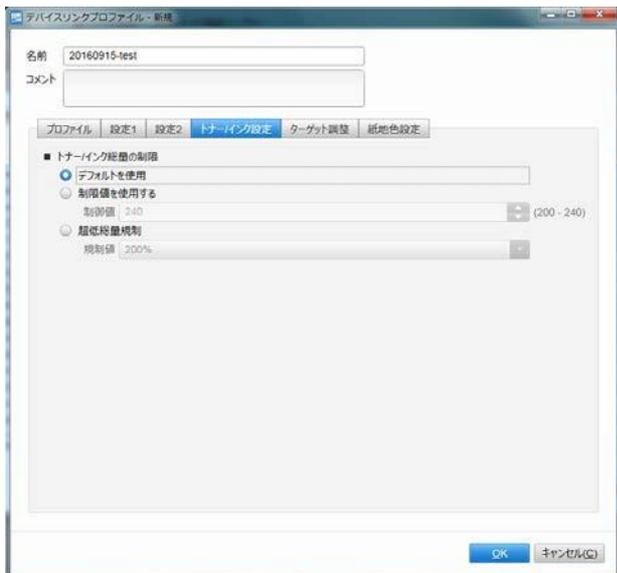
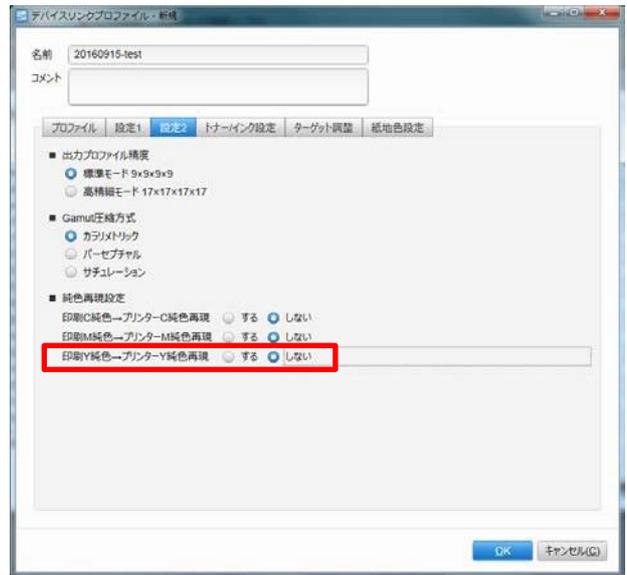
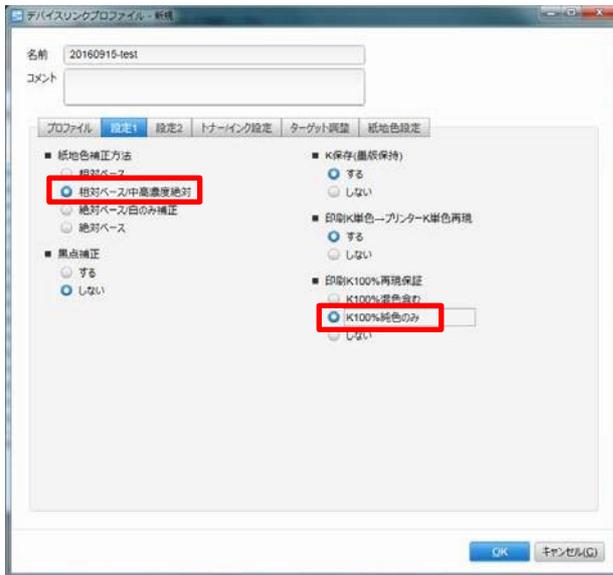
10. 「デバイスリンクプロファイル」ダイアログが表示されたら、「新規」ボタンをクリックしてください。



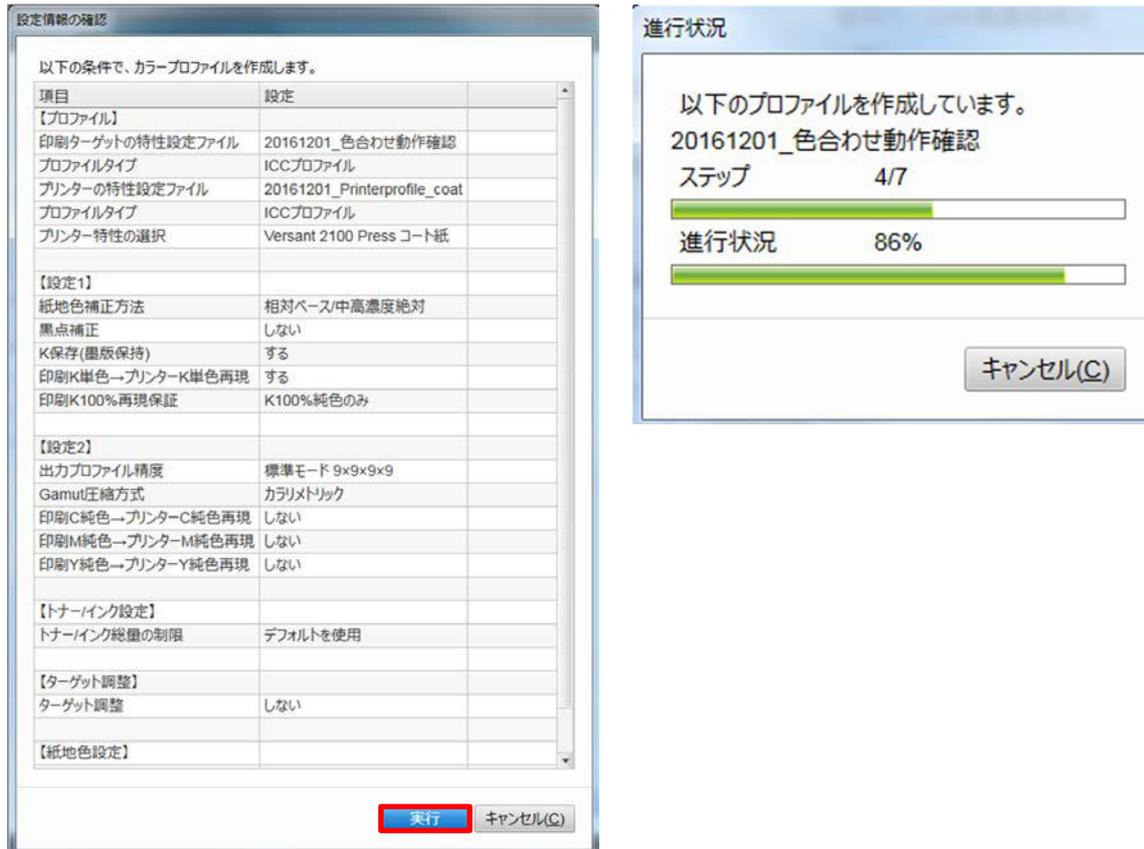
11. 色見本プロファイルとプリンタプロファイルを選択し、デバイスリンクプロファイル名を設定します。「印刷ターゲットの特性設定ファイル」は、「選択」ボタンをクリックし上記ステップ4で読み込んだ色見本プロファイルを選択してください。「プリンタの特性設定ファイル」も同様に「選択」ボタンをクリックし上記ステップ8で読み込んだプリンタプロファイルを選択してください。デバイスリンクプロファイル名は、例えば” 20161201\_AAA\_FB0” (AAA:JOB名) としてください。
- なお、Print Server Ver.1.6以上は、「印刷ターゲットの特性設定ファイル」、「プリンタの特性設定ファイル」それぞれ「参照」ボタンをクリックし、開いた各ダイアログにて「ファイルの種類」を「ICCプロファイル」とし、「色見本プロファイル」および「プリンタープロファイル」を直接設定することができます。



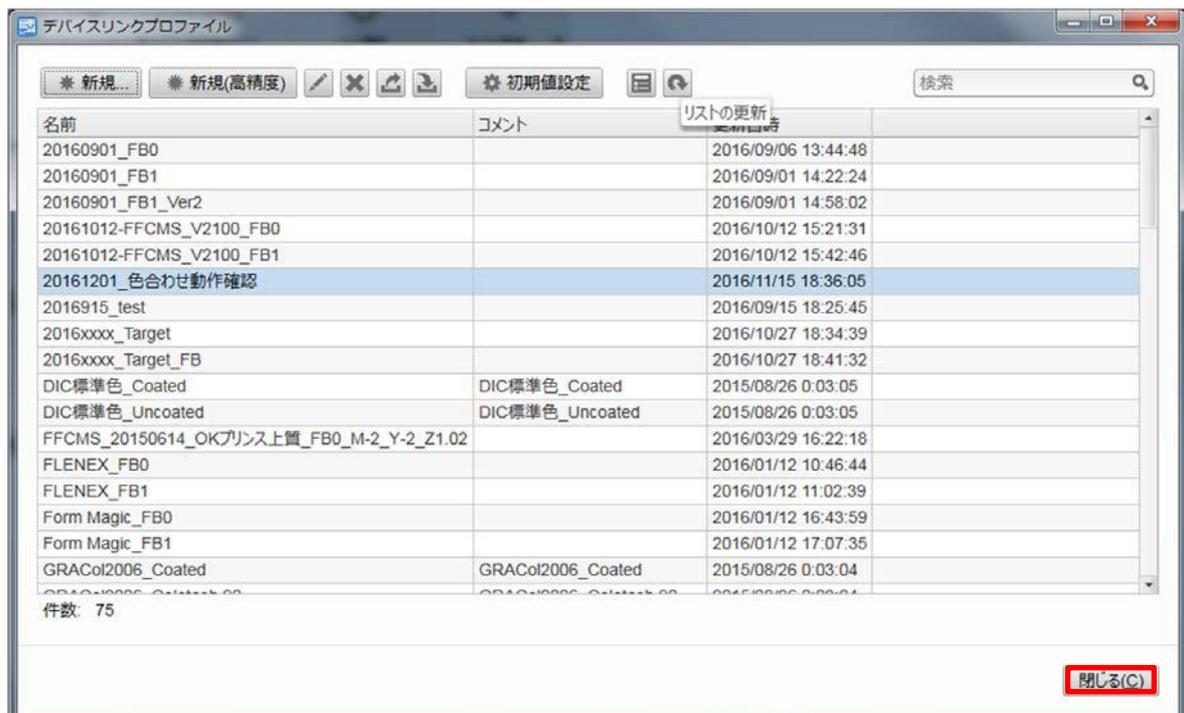
12. 「設定 1、2」のボタンをクリックし、以下のように設定してください。「設定 3～5」は以下のように設定されているか確認し、異なっている場合は以下のように設定し、最後に「OK」ボタンをクリックしてください。



13. 設定情報を確認し、『実行』をクリックすると、進行状況ダイアログが表示されます。



14. デバイスリンクプロファイルが登録されます。「閉じる」ボタンをクリックしてください。



デバイスリンクプロファイルの作成が完了しました。

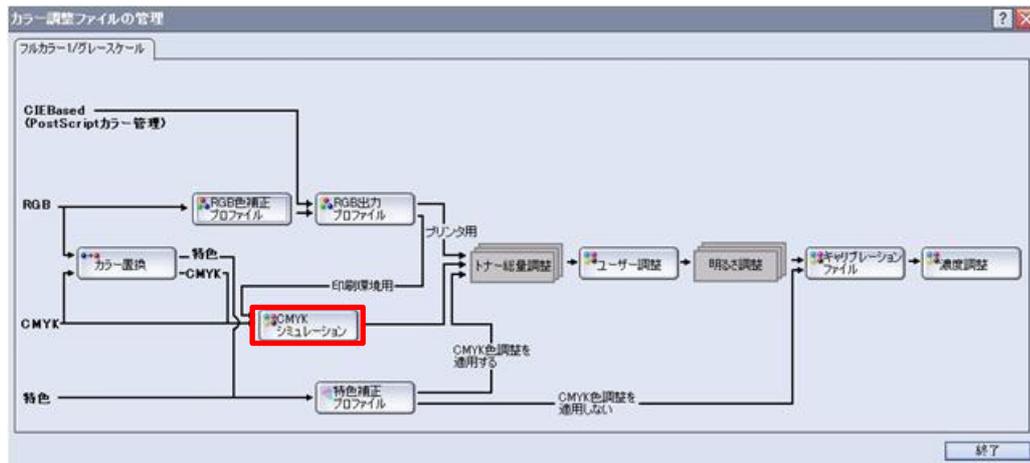
### 3-5-2. PX Print Server

色見本プロファイルとプリンタープロファイルを一緒にしたデバイスリンクプロファイルを作成します。

1. 「カラー調整ファイルの管理」をクリックしてください。



2. 「CMYK シミュレーション」をクリックしてください。



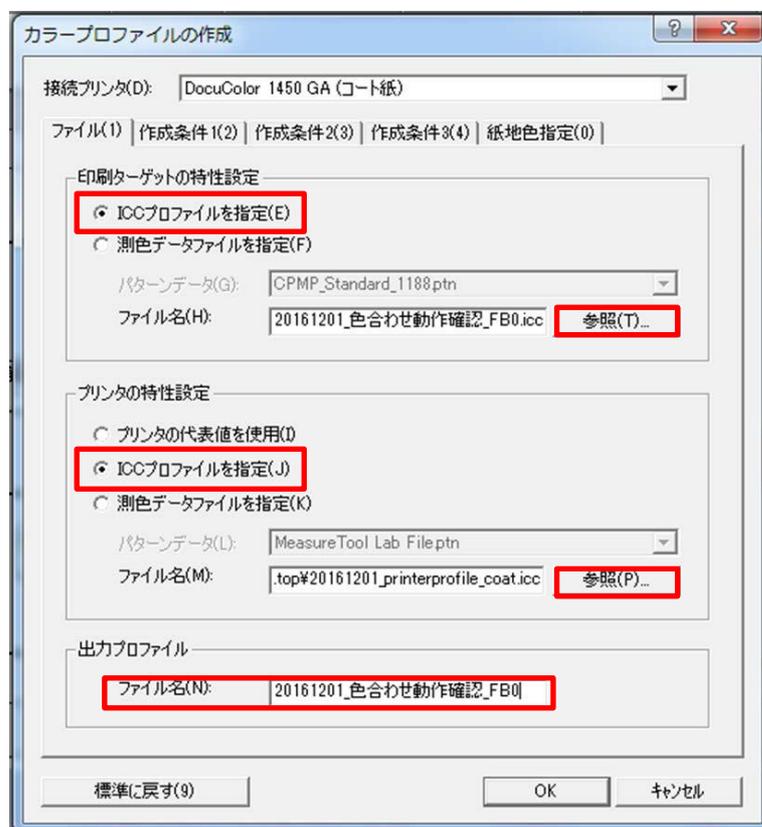
3. 作成したい番号を選択し、「作成」をクリックしてください。



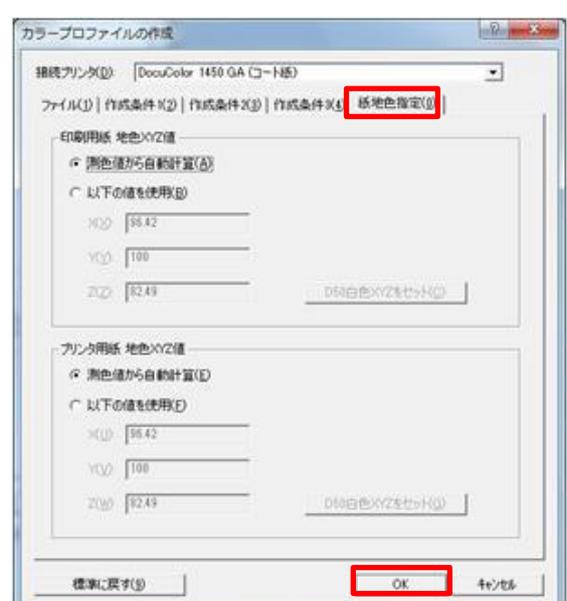
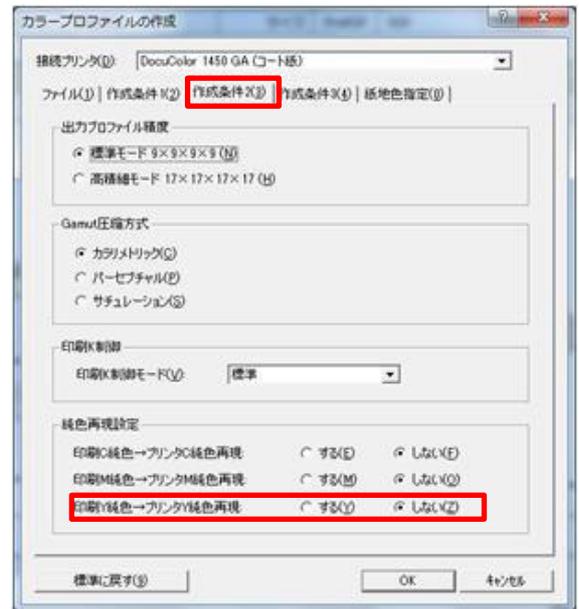
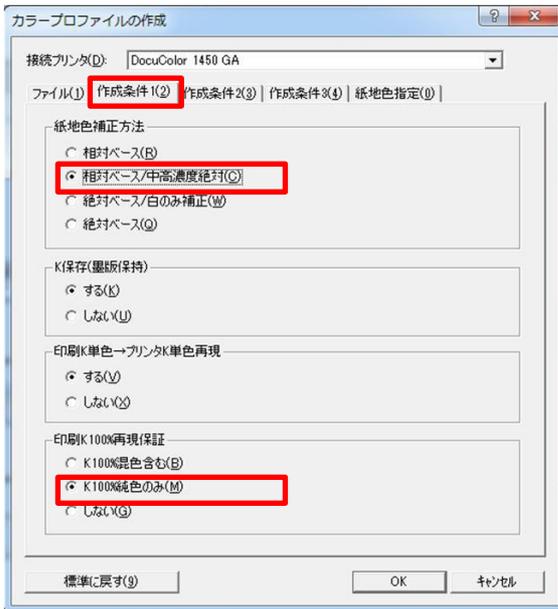
4. Color Profile Maker Pro が起動したら、「通常」ボタンをクリックしてください。



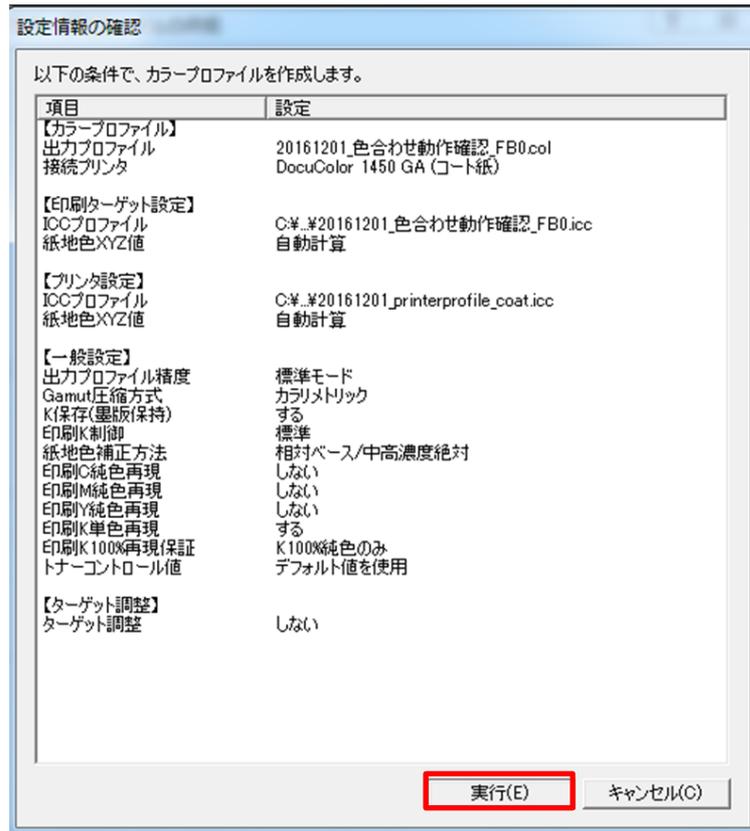
5. 「カラープロファイルの作成」ダイアログが表示され、「印刷ターゲット特性設定」では、「ICCプロファイルを指定」を選択、「参照」をクリックして、共有化されているRMA\_WORKフォルダ下の色見本プロファイルを選択してください。
6. 同様に「プリンタ特性設定」では、「ICCプロファイルを指定」を選択、「参照」をクリックして、共有化されているRMA\_WORKフォルダ下のプリンタプロファイルを選択してください。
7. 「出カプロファイル」では、デバイスリンクプロファイル名を設定してください。デバイスリンクプロファイル名は、例えば”20161201\_AAA\_FB0” (AAA:JOB名) としてください。



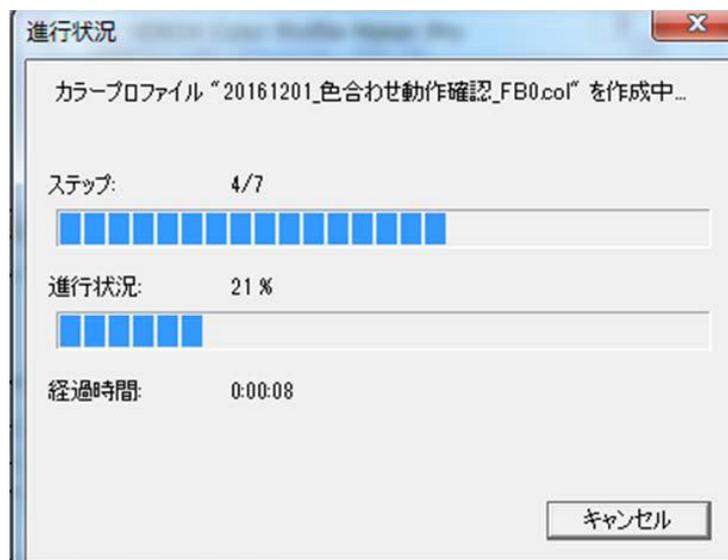
8. 「作成条件 1、2」のタブを選択後、各項目を以下の通りに設定してください。「作成条件 3」、紙地色指定のタブを選択後、各項目が以下の通りになっているか確認ください。異なっていれば、以下の通りに設定し、最後に「OK」ボタンをクリックしてください。



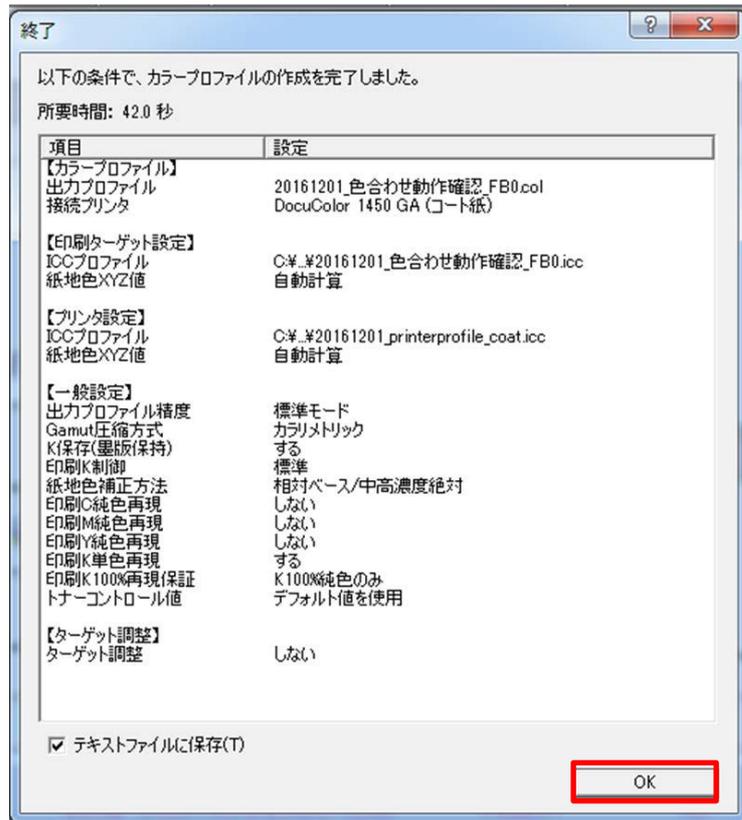
10. 設定情報の確認に問題がなければ「実行」をクリックしてください。



11. 「進行状況」ダイアログが表示されます。



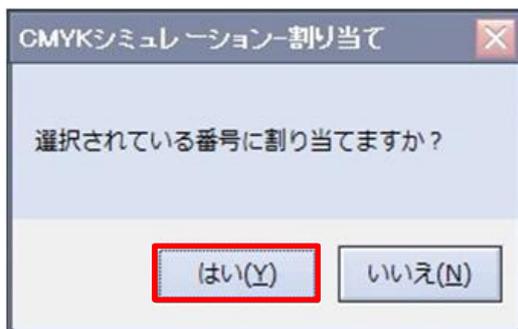
12. 下記の条件を確認し「OK」をクリックしてください。



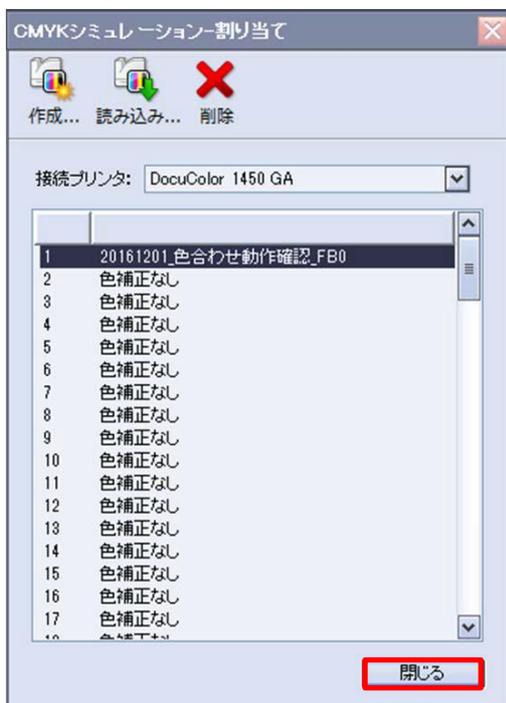
13. 「終了」をクリックしてください。



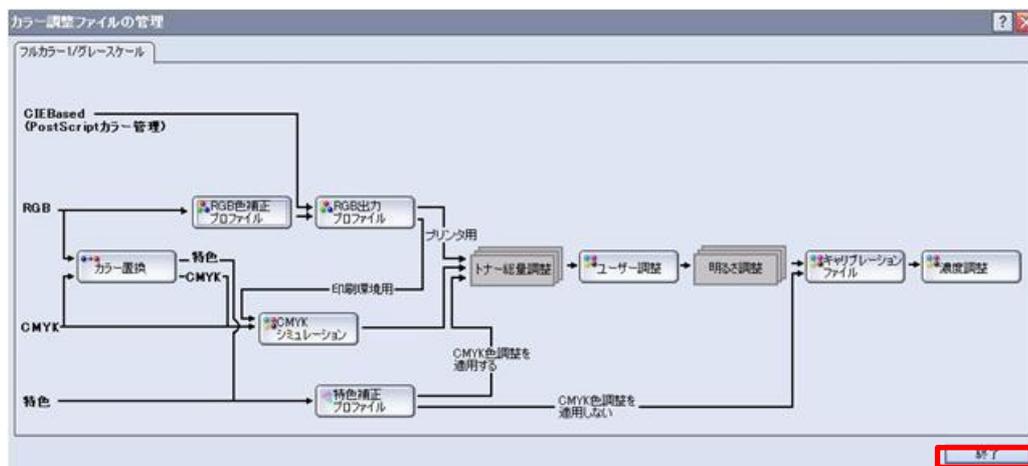
14. 上記ステップ 3 で設定した番号 1 に出力（デバイスリンク）プロファイルを登録するので、「はい」をクリックしてください。



15. 登録された出力（デバイスリンク）プロファイルを確認し、「閉じる」をクリックしてください。



16. 「終了」をクリックしてください。



デバイスリンクプロファイルの作成が完了しました。

## 3-6. 印刷

本節では、PODプリンターPrint Server内において、原稿データを前節で作成したデバイスリンクプロファイルで処理し、印刷する方法について説明します。印刷する前に、キャリブレーションの実施をお勧めします。

### 3-6-1. GX Print Server

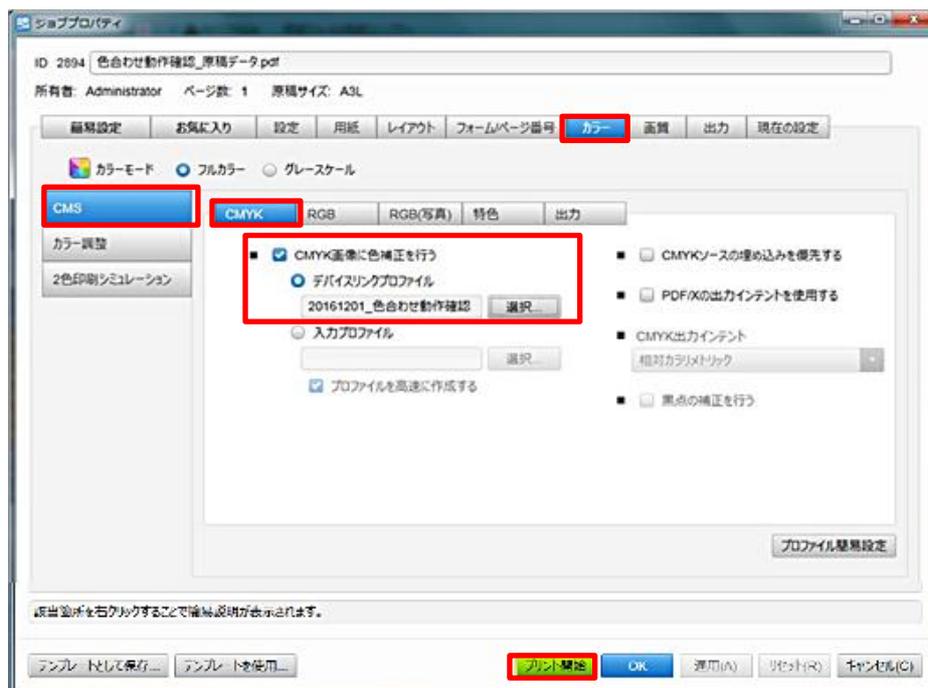
作成したデバイスリンクプロファイルを使って、原稿データを出力します。

本節では、作成したデバイスリンクプロファイルの設定のみの説明とし、他の出力条件については、Fuji Xerox 社製マニュアルをご覧ください。下記ジョブ管理画面上部にあるヘルプより参照できます。

1. 「ジョブ管理」ボタンをクリックし、出力対象の原稿データをダブルクリックしてください。



2. 「ジョブプロパティ」にて各種出力条件設定します。作成したデバイスリンクプロファイルは、「カラー」、「CMS」、「CMYK」ボタンをクリックし、「CMYK画像に色補正を行う」をチェックし、デバイスリンクプロファイルを設定してください。出力条件の設定が完了したら、下側中央の「プリント開始」ボタンをクリックしてください。出力が開始されます。*Print Server 1.4*以下の場合、「プリント開始」ボタンは左側下にあります。

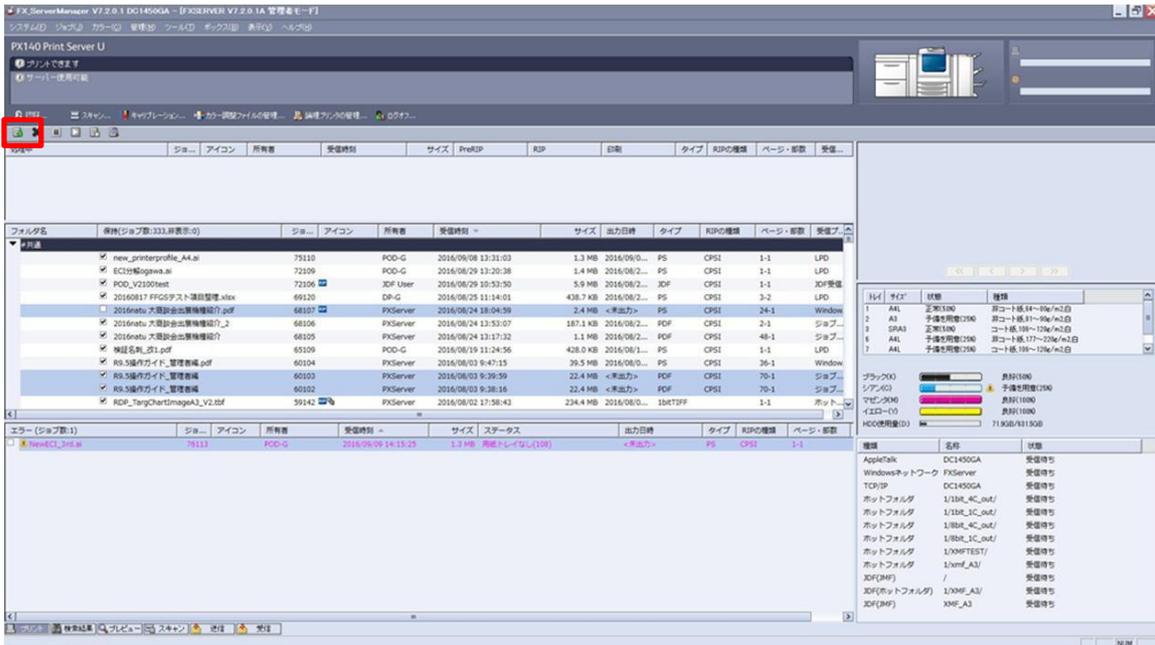


## 3-6-2. PX Print Server

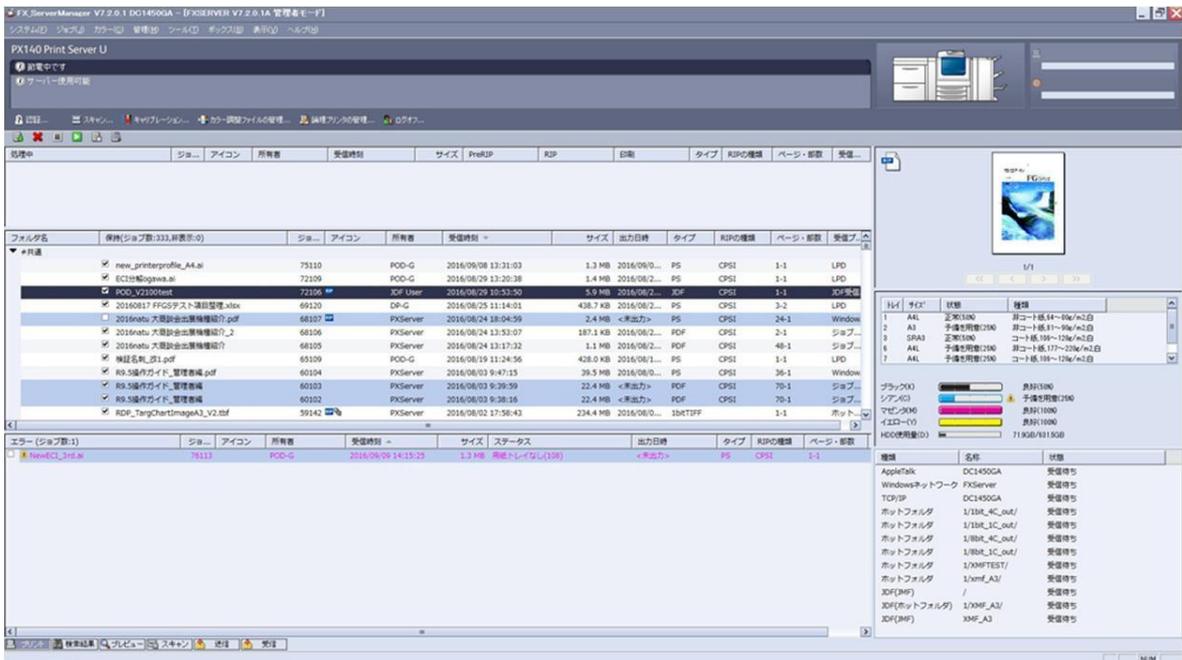
作成したデバイスリンクプロファイルを使って、原稿データを出力します。

本節では、作成したデバイスリンクプロファイルの設定のみの説明とし、他の出力条件については、Fuji Xerox 社製マニュアルをご覧ください。

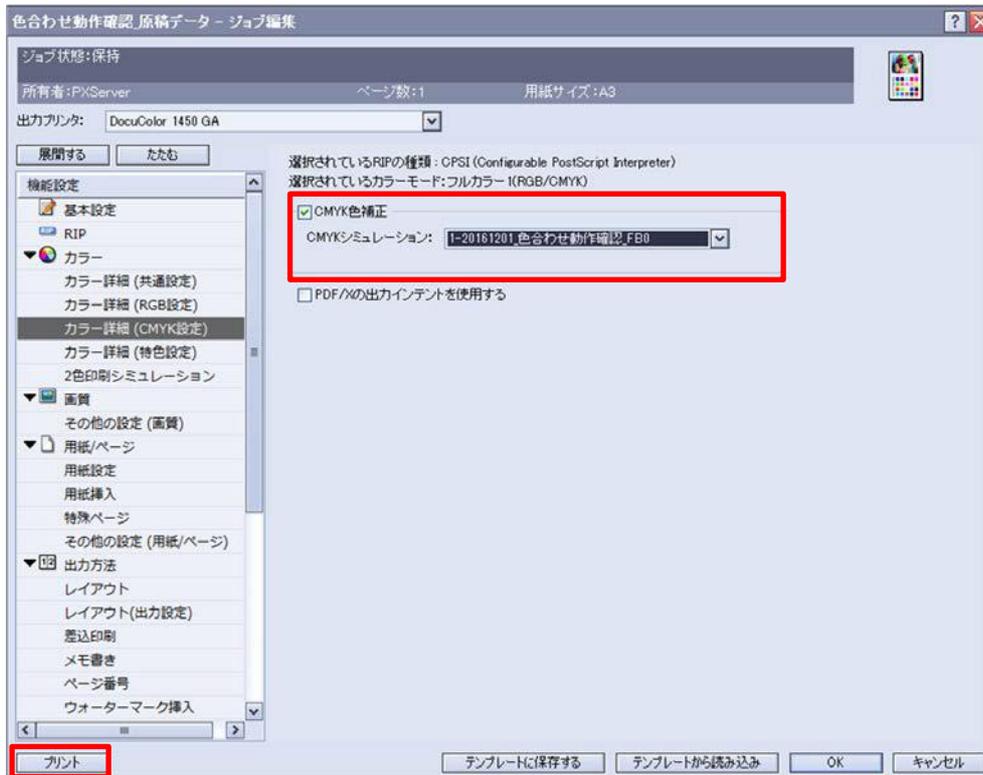
1. 「ジョブ読み込み」ボタンをクリックし、「ファイルを開く」ダイアログを開きます。このダイアログから読み込むファイルを選択してください。



2. 読み込んだファイルをダブルクリックしてください。ジョブ編集ダイアログが開きます。



3. 「ジョブ編集」ダイアログにて各種出力条件設定します。「カラー詳細 (CMYK 設定)」で、Color Profile Maker Pro で作成したデバイスリンクプロファイルを設定してください。出力条件の設定が完了したら、左下の「プリント」ボタンをクリックしてください。出力が開始されます。



### 3-7. フィードバック機能を使用する場合

色合わせした印刷物の色合わせ精度が不足している場合、色見本プロファイルを作成し直す方法について説明します。

RMA ソフトウェアには、色合わせ印刷物を再度スキャンすることで、さらに精度の高い色合わせが可能な「フィードバック」機能を搭載しています。

一度目の色合わせ結果よりも、さらに精度を上げた色合わせを行いたい場合は、フィードバック機能をご利用ください。但し、PODプリンターから出力した印刷物を色見本とする場合は、比較的高い色合わせ精度となりますが、他の色材の色見本（オフセット、インクジェットなど）などの場合は、色合わせ精度が低下する場合があります（P.60参照）。

一度目の色合わせ終了後、時間を置かずにフィードバックを開始してください。

フィードバックを実行するためには、以下が満たされている必要があります。

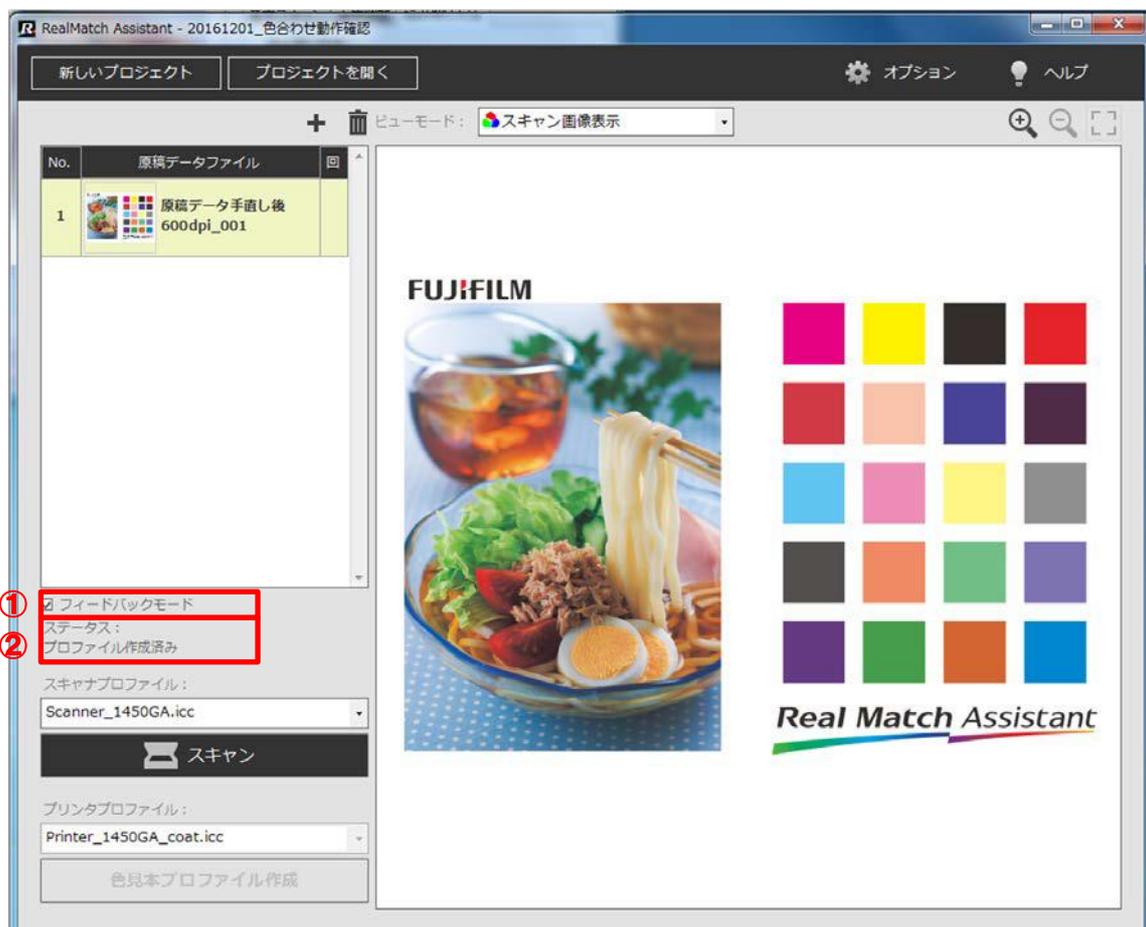
- 該当プロジェクトで一度以上色合わせを実行していること。
- 色合わせにより出力したプロファイルを使った印刷物があること。
- プロジェクトフォルダー式が残っていること。

#### 3-7-1. フィードバックモードの選択

- ① 「フィードバックモード」のチェックボックスにチェックを入れてください。  
② 「ステータス」が「プロファイル作成済み」になっていることを確認してください。フィードバックモードに入り、既存のスキャン結果が非表示になります。

なお、フィードバックをキャンセルしたい場合は、チェックボックスを外してください。

※既に複数回フィードバックを行っている場合は、「フィードバック済み[回数]」と表示されます。



### 3-7-2. 色合わせ済み印刷物のスキャン

1. 前回の色見本プロファイルを使って印刷した印刷物（色合わせ済み印刷物）をスキャナにセットします。フィードバックモードでは、この色合わせ済み印刷物をスキャンしてフィードバックを行います。スキャンの方法は、「3-4. スキャン」を参照ください。なお、スキャナプロファイル名を「20161201\_AAA\_FB1」とし、「FB1」でフィードバックの回数を指定することをお勧めします。

### 3-7-3. 色見本プロファイルの作成

1. 色合わせ済み印刷物のスキャンが完了したら、色見本プロファイルを作成します。「3-5. 色見本プロファイルの作成」を参照ください。「プリンタープロファイル」を1回目と同じ設定にし、「色見本プロファイル作成」ボタンをクリックします。なお、色見本プロファイル名を「20161201\_AAA\_FB1」とし、「FB1」でフィードバックの回数を指定することをお勧めします。  
一度フィードバックを実行した後は、前回色合わせ時のスキャン結果に戻ることができなくなります。ご注意ください。

### 3-7-4. デバイスリンクプロファイルの作成／印刷

1. フィードバックによる色見本プロファイルを使用して再度色合わせ印刷物を作成してください。「3-6. デバイスリンクプロファイル」、「3-7. 印刷」を参照ください。なお、ファイル名を「20161201\_AAA\_FB1」とし、「FB1」でフィードバックの回数を指定することをお勧めします。

## 4. 注意事項

### 1. プロファイル運用方法について

PODプリンターは経時変動が比較的大きいプリンターです。高精度にプロファイルを作成しても数週間後にはずれてしまう場合があります。本システムは、色見本毎にプロファイルを作成するため、この問題点を最小限に抑えています。本メリットを活かすため、色見本プロファイル作成後、速やかに印刷物を作成することをお勧めします。日を跨って色見本プロファイルを使用することはお避けください。なお、プリンタープロファイルはご使用になるPODプリンターのプリンタープロファイルを作成することをお奨めします。RMAソフトウェアインストール後、用紙の銘柄、ロットなどが変わった時に更新してください。

### 2. 色合わせ精度について

RMAソフトウェアを使用した際の色合わせ精度は、色見本の紙種、色材など条件により異なります。ご使用になっているPODプリンターからの印刷物を色見本とした場合(色見本と印刷物の色材が同じトナー)は比較的高い色合わせ精度となります。

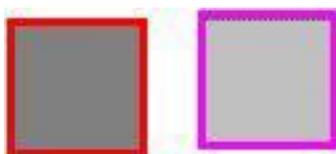
また、下記条件の場合は色合わせ精度が低下する場合があります。

- ・色見本の色材がトナー以外(インクジェット、オフセット印刷など)の場合
- ・色見本の紙種が印刷物の紙種と異なる場合
- ・色見本と印刷物の紙白の色が異なる場合
- ・色見本の絵柄が淡い色あるいは高彩度色で占められている場合

### 3. RMAソフトウェアが動作しない色見本の絵柄について

RMAソフトウェアは、内部で原稿データとスキャンRGBデータの間で絵柄の位置合わせを行うことで、画素単位のCMYK情報とRGB情報(測色値情報)のセット情報を求めています。しかし両データの位置合わせをする場合、以下のような絵柄は絵柄の位置合わせができず、色見本およびプリンタープロファイルを作成することができません。

- ・画像全面ベタ、画像全面グラデーションのような文字、エッジ等の構造のない絵柄の場合



- ・画像全面に同一パターンが複数ある絵柄(例えば名刺等の複数面付け、チェックの絵柄、名刺の場合は複数面付けをせず、名刺1枚を色見本原稿としてください)の場合



- ・画像全面に線対称なあるいは回転対称な絵柄の場合



## 5. Q&A

本章では、RMAソフトウェア使用において、想定される問題への解決方法を説明します。

### 1. 原稿データの入力

#### 1) 画像が入力できない・入力した画像の表示がおかしい。

画像形式がRMAソフトウェアの仕様に沿っていない可能性があります。

CMYK PDF または TIFF (8 ビット) 形式の原稿データをご用意ください。特色、RGB は対応していません。なお、PDF はフォントが埋め込まれていることが必要です。

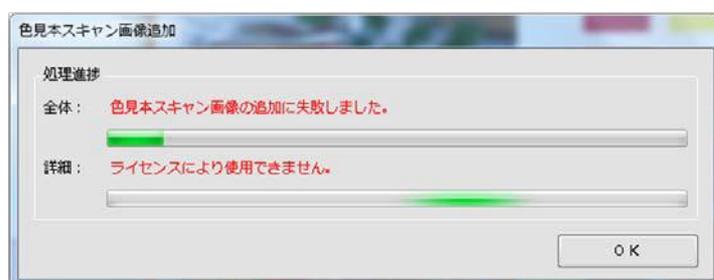
#### 2) 色見本がオーバープリントを反映していないのに対し、原稿データがオーバープリント指定のPDFである。どう対応したらよいでしょうか。

オーバープリント指定の原稿データPDFをPhotoShopなどでオーバープリントOFFにしたTiffへ変換して、RMAソフトウェアに入力してください。

なお、色見本がオーバープリントを反映している場合は、オーバープリント指定の原稿データPDFをそのままRMAへ入力してください。

### 2. スキャン

#### 1) 「スキャン」ボタンをクリックし、「OK」ボタンをクリックすると、以下のメッセージが出ました。(2017.3.8修正)



OKボタンをクリックしてください。本編P.20、34参照。エラーが発生した原因として、以下が考えられます。

- ・原稿データ (600dpi) とスキャンデータ(600dpi)サイズが異なる。  
⇒原稿データと同サイズの色見本をご用意ください。色見本の出力倍率にご注意ください。
- ・原稿データとスキャンデータの位置合わせができない絵柄があります。  
⇒本編4.注意事項参照。
- ・原稿データとスキャンデータの絵柄が異なっている。  
⇒色見本と原稿データの絵柄は一致している必要があります。(事前準備編P.3、下記2) 参照)

#### 2) 色見本と原稿データの絵柄の一部が異なっている場合、色合わせできますか。(2017.4.10修正)

原稿データとスキャンデータの絵柄の一部(デザイン、色)だけが異なっている場合、上記1)のエラーが出ない場合があります。このような場合、正常なプロファイルを作成することができず、色の合っていない、ジャンプの発生した印刷物が作成される場合があります。絵柄の一部だけが異なっている場合、色見本をスキャンさせる時、原稿データと絵柄の一致している部分だけをスキャンしてください。

### 3) ScanUtilityの「プレスキャン」ボタンをクリックしてもスキャンが開始されない。

以下の原因が考えられます。

- ・ PODプリンターPrint ServerとLANポート間のネットワークケーブルが繋がっていない。
- ・ ScanUtilityに設定されているIPアドレスが間違っている。

### 4) 色見本のサイズがスキャナドライバソフト「ScanUtility」の読み取りサイズと一致していません。どのようにスキャンすればよいですか。(2017.8.2追加)

色見本全体をカバーする読み取りサイズを選択し、プレスキャン終了後、周囲に色見本以外のデータが入らないように、プレスキャンデータをトリミングしてください。(本編P.31参照)

## 3. プロファイル作成

### 1) プリンタープロファイルは更新する必要がありますか。(2017.6.19修正)

デフォルトのプリンタープロファイルが搭載されていますが、本来プリンタープロファイルはご使用になるプリンタの特性を記述したプロファイルにすべきです。プリンタープロファイルは本ソフトウェア導入時、用紙の銘柄、ロットが変わった場合などに応じて更新することをお勧めします。

### 2) 複数画像(ページ物)で一つの色見本プロファイルを作成することができますか。

可能です。複数の原稿データを読み込み、色合わせしたい画像(ページ)をスキャンさせてください。(本編P.27、35参照)

## 4. その他

### 1) フィードバック機能を使っても色が合わない場合、どうすればよいですか。

お客様が通常使われている色調整を行ってください。本RMAソフトウェアには色調整機能は搭載されていません。色調整したい場合、POD Print Serverに搭載されているカーブ調整機能を使用するか、PhotoShopなどで原稿データを修正してください。

### 2) 色が合いやすいケースとそうでないケースを教えてください。

ご使用になっているPODプリンターからの印刷物を色見本とした場合(色見本と印刷物の色材が同じトナー)は比較的高い色合わせ精度となりますが、①色見本の色材がトナー以外(インクジェット、オフセット印刷など)である場合、②色見本の紙種が印刷物の紙種と異なる場合、③色見本と印刷物の紙白の色が異なる場合、④色見本の絵柄が淡い色あるいは高彩度色で占められている場合は、色合わせ精度が低下する場合があります。(本編4.注意事項参照)

### 3) 同じ機種種のPODプリンターのスキャナを切り替えて使えますか。

スキャナドライバソフト「ScanUtility」のIPアドレスを変更することで可能です。(事前準備編P.15参照)

### 4) 機種種の異なるPODプリンターのスキャナを切り替えて使えますか。

対象PODプリンターのスキャナドライバソフト「ScanUtility」をそれぞれインストールし、RMAソフトウェアをインストール後、対象PODプリンターのライセンス認証を行うことで可能となります。事前準備編P.14参照)

#### 5) 他のスキャナからのスキャンデータを取り込むことはできますか。

ソフトウェア使用許諾規約上、禁止されています。メイン画面ヘルププルダウンメニューよりソフトウェア使用許諾規約書を参照ください。

#### 6) 他のプリンタへ出力することは可能ですか。オフセット印刷で出力させることは可能ですか。

ソフトウェア使用許諾規約上、禁止されています。メイン画面ヘルププルダウンメニューよりソフトウェア使用許諾規約書を参照ください。

#### 7) インストール後、C:¥ユーザー¥ (ユーザー名) の下に自動生成される RMA\_WORK フォルダを別ドライブに移動してもよいですか。

よいです。一つのプロジェクトを作成する度にHDD容量を 1GB 以上使用します (本編 P.3、24参照)。HDD容量に余裕のある別ドライブに移動することをお勧めします。

#### 8) 常時インターネットに接続する必要がありますか。

RMA ソフトウェアインストール後のライセンス認証時、あるいはアンインストール時のライセンス解除時だけインターネットに接続する必要があります。通常操作時はインターネットに接続する必要はありません。

#### 9) POD Print Server 内に RMA ソフトウェアをインストールすることはできますか。

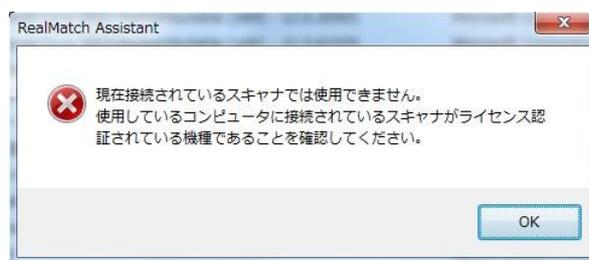
POD プリンター用 Print Server 内に RMA ソフトウェアをインストールすることは禁止しています。Print Serverの動作に悪影響を与える可能性があります。(事前準備編P.3 参照)

#### 10) 色見本プロファイルおよびプリンタープロファイルは、他システム で使用可能ですか。

(2017.7.4修正)

色見本プロファイルとプリンタープロファイルはICCに準拠しているため他システムで使用可能ですが、スキャナによる測色値を使用しているため品質の保証はできません。

#### 11) RMA 実行アイコンをダブルクリックして立ち上げようとしたが、以下のメッセージが出た。



以下の原因が考えられます。

- ・ PODプリンターがライセンス認証されている機種と異なる。
- ・ ScanUtility がインストールされていない。

## 12) RMA 実行アイコンをダブルクリックして立ち上げようとしたが、以下のメッセージが出た。



以下の原因が考えられます。

- 以下の3つのプログラムが全てインストールされていない。
  - Microsoft Visual C++ 2012 Redistributable(x64)
  - Microsoft Visual C++ 2012 Redistributable(x86)
  - Microsoft Visual C++ 2013 Redistributable(x64)

## 13) RMA 実行アイコンをダブルクリックして立ち上げようとしたが、以下のメッセージが出た。 (2017.2.21修正)



以下の原因が考えられます。

- ライセンス認証が未実施です。ライセンス認証を実施してください。
- ライセンス認証が正しく完了していません。ライセンス認証が正しく完了していない原因の一つとして、コンピュータ名、ワークグループ名、ドメイン名が変更されている可能性があります。元の名称に戻した上、立ち上げ直し、ライセンス認証マネージャによりライセンス認証を解除してください。その上で、コンピュータ名、ワークグループ名、ドメイン名を新しい名称に変更し再立ち上げ後、ライセンス認証マネージャによりライセンス認証を行ってください。